C2
1113
53-06

東京圖書館

新門	二五函
十部	四架
二類	號

函假名付
山梨勝布達之寫
明治三十年
第十月

C3
113
53-06

明治十一年八月

兩假名附

山梨縣布達之寫

甲府常盤町四番地
又新社發兌

○
甲第百六拾號より百七拾四號に至る
○
太政官第十八號より第廿一號に至る
大藏省甲第廿四號より甲第廿八号に至
工部省第十三號第十四號
内務省甲第廿三號
○
乙第六十號より六十五號に至る
○
○山梨縣勧業報告第十九號
○同衛生報告第八號

明治十一年第八月

兩假名附 山梨縣布達れ寫索引

○甲第百六拾號 八月一日 府縣會規則 一丁
太政官第十八號 七月廿二日
○甲第百六拾壹號 同二日 地方税規則制定 六丁
太政官第十九號 七月廿二日
○甲第百六拾貳號 同 日 三品親王敬仁尊御葬送 九丁
太政官無號 七月廿日
○甲第百六拾三號 同三日 神奈川縣下相模國觀音崎燈臺へ點火 同丁
工部省第十三號 七月廿六日
○甲第百六十四號 同 日 兵庫縣下第五十六國立銀行開業 拾丁
大藏省甲第廿五號 七月廿七日
○甲第百六十五號 同五日 金銀精製分析所規則制定 同丁
大藏省甲第廿四號 七月廿七日

○甲第百六拾六號　太政官第廿號　八月三日　同七日　常備兵役と竟へざる前分家の儀達　十五丁
○甲第百六十七號　同八日　靜岡裁判所長歸任　同丁
○甲第百六拾八號　工部省第十四號　八月三日　同九日　福岡縣下三池へ電線架設　十六丁
○甲第百六拾九號　太政官無號　八月十日　同十五日　北陸東海兩道　御巡幸　同丁
○甲第百七拾號　大藏省甲第廿六號　八月十日　同日　第三十四國立銀行本店移轉　十七丁
○甲第百七拾壹號　太政官第廿一號　八月九日　同十六日　生阿片取扱規則を廢し藥用阿片賣買並製造規則　同丁
○甲第百七拾貳號　內務省甲第廿三號　八月五日　同十七日　圖書寫眞版權書目　廿一丁
○甲第百七拾三號　大藏省甲第廿七號　八月十六日　同廿一日　金祿公債証書利子小札　同丁
○甲第百七拾四號　大藏省甲第廿八號　八月廿七日　同卅一日　新公債証書抽簽　同丁

同　乙號　索引

○乙第六拾號　八月一日　小學校建築方法　一丁
○乙第六十一號　陸軍省達甲第十七號　七月卅日　同九日　陸軍恩給令諸書式中加除正誤　二丁
○乙第六十二號　同十日　山口縣に於て醫籍改正に付常縣下寄留れ者有之は達方依頼　三丁
○乙第六十三號　同廿六日　近衛炮兵暴動鎮定　同丁

○乙第六拾四號　同三十日　客歲西南の役警視局管理内務省乙第五十二號　八月五日　出張死傷ナ者恩給扶助假條例　四丁
○乙第六十五號　同卅一日　社寺遞減祿再達　七丁
○
山梨縣勸業報告第十九號　八丁
同　衛生報告第八號　十丁

○甲第百六十號　八月一日

太政官第十八號七月廿二日

府縣會規則左の通被定候條此旨布告候事

第一章　總則

第一條　府縣會は地方税を以て支辨そへき經費の豫算及び其徵收方法を議定す

第二條　府縣會は通常會と臨時會との二類に別り其定則に於て開く者を通常會とナし臨時に開く者を臨時會とす

第三條　通常會臨時會を論せ之會議の議案い總て府知事

縣令より之を發す

第四條　臨時會は其特に會議を要する事件に限り其他の事件を議するを得ず

第五條　凡そ地方稅を以て施行すへき事件は府縣に會議に付き其議決い府知事縣令認可に上之を施行すへき者とす若し府知事縣令其議決を認可すへからさと思慮する時は其事由を內務卿に具狀して指揮を請ふへし

第六條　府縣會は每年通常會議の初めに於て地方稅に係る前年度の出納決算に報告書を受く

第七條　通常會期中議員の內一人又い數人其府縣內に利害に關する事件に付政府に建議せんとする者あるは議長の許可を得て之を會議に付し過半數の同議を得たるときは其會に所見と議長に名を以て之を內務卿に建議するを得

第八條　府縣會は府知事縣令より其府縣內に施行す可き事件に付會議の意見を問ふことあるときは之を議す

第九條　府縣會は議事の細則を議定し府知事縣令の認可を得て之を施行することを得

第二章　撰擧

第十條　府縣會の議員は郡區の大小に依り每郡區に五人

以下を撰ぶ

第十一條　議長副議長は議員中より公選す府知事縣令之と認可し內務卿に報告すべし

議長副議長及び議員は俸給なし但會期中滯在日當及び往復旅費を給す其額は會議に議決を以て之を定む

第十二條　書記は議長之を選び庶務を整理せしむ其俸給の會費の中より之を支給す

第十三條　府縣の議員たることを得べき者は滿二十五歲以上の男子にして其府縣內に本籍を定め滿三年以上住居し其府縣內に於て地租十圓以上を納むる者に限る但

左の各款に觸るる者は議員たること得ず

第一款　風癲白痴に者

第二款　徵役一年以上の判決に處せられたる者

第三款　身代限の處分を受け負債に辨償を終へざる者

第四款　官吏及教導職

第十四條　議員を選擧するを得べき者と滿二十歲以上に男子にして其郡區內に本籍を定め其府縣內に於て地租五圓以上を納むる者に限るべし

但し前條は第一欵第二欵第三欵に觸るる者は選擧人たることを得ず

第十五條　議員を撰擧せんとするときは府知事縣令より某月間に選擧會を開くべき旨を布令し郡區長は豫め撰擧の投票を爲すべき日を定め少くとも十五日前に之を郡區内に公告すべし

第十六條　選擧の投票は豫定の日に郡區廳に於て之を爲す郡區長之を調査し撰擧會中に取締を爲すべし但し便宜に因り郡區廳外に於て撰擧會を開くことを得

第十七條　投票は豫め郡區長より付與したる用紙に撰擧人自己及び被撰人の住所姓名年齡を記し豫定の日之を郡區長に出すべし投票は多數の者を以て當撰人とし同數なる者は年長を取り同年なる者は鬮を以て之を定む

但し投票は代人に托し差出すも妨なし

第十八條　投票終るの後郡區長は撰擧人名簿に就て投票に當否を査し又被撰人名簿に就て當撰人に當否を査し若し法に於て不適當なるあるか或は當撰人自ら其撰を辭するときは順次投票の多數を得たる者を取る

第十九條　當撰人の當否を査定するの后郡區長は其當撰人を郡區廳に呼出し當撰狀を渡し當撰人は請書を出す

べき

但し當撰人各請書を出さたる后郡區長は其姓名等を郡區内に公告そべき

第二十條　一人にして數郡區に撰に當るときは其何れに郡區に屬そべきは當人に好に任すべし

第廿一條　議員の任期は四年とし二年毎に全數の半を改撰そ第一回二年期の改撰を爲そは抽籤法を以て其退任の人を定む

第廿二條　議長副議長の任期は二年とし議員に改撰毎に之を公撰すべし

第廿三條　前二條の場合に於ては前任の者を再撰することを得

第廿四條　議員中第十三條に掲ぐる訴獄の場合に遭遇そる者あるか其府縣外へ轉任そるか又は死去さたるときは更に其欠に代る者を撰擧す其疾病等止むを得ざる事故あくして開會の招集に應せざる者は退職者とし亦其欠に代る者を撰擧そ

第三章　議則

第廿五條　議員半數以上出席せざそば當日の會議を開くを得ず

第廿六條　會議は過半數に依て決を可否同數なるときは議長に可否する所に依る

第廿七條　府知事縣令若くは其代理人は會議に於て議案の旨趣を辨明すると得但決議に數に入ることを得ず

第廿八條　會議は傍聽を許す但し府知事縣令の要めに依り又は議長の意見を以て傍聽を禁ずると得

第廿九條　議員は會議に方り充分討論の權を有す然れども人身上に付て褒貶毀譽に渉ることを得ず

第三十條　議場を整理するは議長の職掌とす若し規則に背き議長之を制止して其命に順はざる者あるときは議長は之を議場外に退去せしむるを得其強暴に渉る者は警察官吏の處分を求むるを得

第四章　開閉

第卅一條　府縣會は毎年一度三月に於て之を開く其開閉は府知事縣令より之を命ず會議は三十日以内とす但府知事縣令は會議の衆議を取りて其日限を伸るゝことを得ると雖も其事由を直に内務卿に報告すべし

第卅二條　通常會期の外會議に付すべき事務ある時府知事縣令は臨時會を開くことを得

但し該會を要する事由を直に内務卿に報告すべし

第卅三條　會議の論說國の安寧を害し或は法律又は規則を犯そことありと認るときは府知事縣令は會議を中止せしめ內務卿に具狀して其指揮を請ふべし

第卅四條　會議中國の安寧を害し或は法律又い規則を犯そことありと認むる時は內務卿は何れ時を問はず閉會を命じ又は議員に解散を命ずることを得

第卅五條　內務卿より解散を命じたるときは更に議員を改撰すべし

○甲第百六拾壹號　同二十日

太政官第拾九號七月廿二日

地方稅規則制定の儀左の通公布相成候條此旨布達候事

但し追て實地施行の儀相達候迄は從前の通可相心得事

從前府縣稅及民費の名を以て徵收せる府縣費區費を改め更に地方稅と云規則左の通被定候條此旨布告候事

第一條　地方稅は左の目に從ひ徵收そ

一地租五分一以內

一營業稅並雜種稅

一戶數割

第二條　營業稅雜種稅の種類及制限と別段に布告を以て之を定む

第三條　地方税を以て支辨そべき費目左の如き

一　警察費
一　河港道路堤防橋梁建築修繕費
一　府縣會議諸費
一　流行病豫防費
一　府縣立學校費及小學校補助費
一　郡區廳舍建築修繕費
一　郡區吏員給料旅費及廳中諸費
一　病院及救育所諸費
一　浦役場及難破船諸費
一　管内限り諸達書及掲示諸費
一　勸業費
一　戸長以下給料及戸長職務取扱諸費

各町村限及區限の入費は其區内町村内人民の協議に任せ地方税を以て支辨そるれ限にあらず

第四條　其年七月より翌年六月迄を一周年度とな去府知事縣令は其年二月迄に地方税を以て支辨そへき經費の豫算並に地方税徴收れ豫算を立て翌年度れ定額とな去其府縣會れ議決を取り其年五月を以て内務卿及大藏卿に報告すべ去其未ざ府縣會を設置せざる地方は直ち内

務卿及び大藏卿に報告そべき

第五條　非常の費用は豫算に立つるを得ざる天災時變の費用を云(別に賦課するを得ると雖も其府縣會に議決を取り內務卿及大藏卿に報告するは第四條の順序に從ふべき其急施と要そる事項は施行きて後報告そべき

但き報告期限は第七條に依る

第六條　地方稅徵收の期限は府知事縣令適宜に之を定むべき

第七條　府知事縣令は毎年七月に至り其一周年度間の出納を計査き精算帳及計表を製して內務卿及大藏卿に報告すべき且翌年通常會議に初めに於て之を府縣會に報告すべき

甲第百六拾二號　同　日

太政官無號　七月三十日

三品親王敬仁尊來る八月二日府下第九大區二小區小石川豐島岡へ御葬送相成候條此旨布告候事

甲第百六拾三號　同三日

工部省第十三號　七月廿六日

今般神奈川縣下相摸國觀音崎燈臺へ左の通壹箇に副燈を設け來る八月十五日の夜より點火候條此旨布達候事

明治十一年（西暦千八百七十八年）第五號

觀音崎燈臺副燈

一上總國富津ヶ洲に浮置する浮標の位置を照示する爲め明治十一年八月十五日（西暦千八百七十八年第八月十五日）の夜を始めと之毎日沒より日出まで相摸國觀音崎燈臺より於て新に赤色の燈火を點ず其光線は該洲を超へて陸地に達すべし

一燈火は第六等燈明器械を以て本燈臺の燈明より凡そ三十二尺下の一窓より發射す光も該火い本燈と同一の鉛垂線にあらず之て稍西方にあり

一射光方位は北七度三十分西より凡そ二百間（ヨケーブル）離れて浮標を照す北十八度三十分東に至る但之右は眞方位なり

一燈明は水面より高さ百四十六尺に之て其光線凡そ七里（海里）に達す

○甲第百六拾四號　同　日　七月廿七日

大藏省甲第二十五號

今般國立銀行條例を遵奉之兵庫縣下播磨國明石郡明石西本町二十四番地に設立之たる第五十六國立銀行に於て公債證書と抵當とし更に引換準備金を置銀行紙幣を發行せ之め右本店に於て通貨を以て交換爲致候條公債證書の利

足と海關税を除の外租税其他一切公私の取引上總て無疑念授受可致此旨布達候事

但し右紙幣の儀は明治十年十二月第九十號並明治十一年七月第十六號布告の品と同一に付別段見本相添ざる事

○甲第百六十五号　同五日

大藏省甲第二十四號七月廿七日

造幣不適當と金銀並に金銀混合と地金精製分析の儀造幣規則第七條に掲載有之候處實際の手續了知不致向も有之哉に相聞候に付今般更に別紙の通精製分析所規則相定候條此旨布達候事

精製分析所規則

第一條

一造幣局ある精製分析所に於て内外人民の請求に任せ精製分析とする不純粹の金銀地金(造幣不適當なるもの)及び金銀混合地金は其價貳百圓以上に去て雜物は千分中貳百五十分以下れものたるべし

但し雜物とい地金中金銀を除くと外諸鑛物を指去て云ふものゝ以下之に同去尤此雜物は都て返却せざるべ去

第二條

一精製分析の爲め不純粹の金銀地金及び金銀混合地金を輸入そるとき之試驗鎔解の上試驗分析をなす金銀品位を輸入人に示し承諾を得るの日より左の日限と以て之を精製分析そべき

但し試驗分析料及び精製分析料は第六條の通りたるべき

金銀比價　二百圓以上五百圓休日を除き三日間未滿

同　五百圓以上千圓未滿　同上五日間

同　千圓以上五千圓未滿　同上七日間

同　五千圓以上壹万圓未滿　同上十日間

同　壹萬圓以上は其時々工業の都合に寄り日限を定むべき

但し精製すたる金銀地金品位試驗分析比日限は此外たるべき

第三條

一試驗分析の上精製分析に不適當あるか或は望みに依り其儘地金を輸入人に返却するときは第六條の通り試驗鎔解料及び試驗分析料を納めさむへき

第四條

一精製分析は上貨幣鑄造を願はずして精製塊にて引渡さを請求するときは其塊數より應ぜ更に第六條中精製地金れ試驗分析料を納めさむへし尤貨幣鑄造を願ふ時は納むるに及ばず

第五條

一精製分析さる金銀地金造幣規則第四條但書の高に滿たざるときは精製濟の日より十五日目に至り金は本位の金貨銀は貿易銀貨を以て拂ひ渡すへき

但し鑄造の手數料は造幣規則第十條第十一條れ割合を以て引去るへき

第六條

一精製分析料試驗分析料及び試驗鎔解料は左れ通りたるへし

精製分析料

不純粹金地金は　金壹圓三拾七錢七厘

純金拾オンスに付　金貳拾壹錢三厘

不純粹銀地金は

純銀拾オンスに付　金貳拾壹錢三厘

金銀混合千分中金百分米滿地金は

所含の純金拾オンスに付金三圓貳拾三錢

同　純銀拾オンスに付金貳拾壹錢三厘

金銀混合千分中金百分以上貳百分未滿地金は

所含れ純金拾オンスに付　金壹圓九拾錢四厘

同　純銀拾オンスに付　金拾貳錢八厘

金銀混合千分中金貳百分以上地金は

所含の純金拾オンスに付金壹圓三拾七錢七厘

同　純銀拾オンスに付金八錢五厘

但し右は都て千分中雜物百分末滿のものに付て若し雜物百分以上を含有する地金は右費額の外雜物百分毎に左の割合を以て增手數料を受取る可し

其地金所含の純金拾オンスに付　金三拾四錢九厘

同　純銀拾オンスに付　金貳錢貳厘

試驗分析料

不純粹金地金	壹塊に付	金貳圓
金銀混合地金	同	金貳圓
不純粹銀地金	同	金壹圓
精製金地金	同	金貳圓
同　銀地金	同	金壹圓

試驗鎔解料は第三條精製に不適當あるか鎔解料或は望に依り其儘地金を返却するときに限り納めしむべし

不純粹金地金　五百オンス未滿　金壹圓
同　五百オンス以上千オンス未滿　金貳圓
但千オンス以上五百オンス毎に金壹圓を增す

〔不純粹銀地金〕
〔金銀混合地金〕　千オンス未滿　金壹圓
同　千オンス以上貳千オンス未滿　金貳圓
但貳千オンス以上千オンス毎に金壹圓を增す

第七條

一貨幣鑄造の爲め輸入せる金銀地金若し造幣不適當に至て精製分析を請求するときは單に左の費額を以て精製分析をへ之其日限は第二條に同之

不適當金地金
純金拾オンスに付　金壹圓二拾八錢四厘

不適當銀地金〔銀中些少の金を含有せる地金とも〕
純銀拾オンスに付　金二拾錢八厘
純金拾オンスに付　金三圓拾四錢五厘
但之雜物百分以上の地金なれは第六條精製分析料の割合たるべし

右之通相定候事

明治十一年七月

大藏省

○甲第百六拾六號　同七日

太政官第二十號　八月三日

常備兵役を竟へざる前分家致し候儀不相成尤徵兵令第三章免役概則第三第四第五條に掲ぐる者徵兵年齢に至り同章第一第二條に照し免役せらるゝたる者第五章第十一條但玄書に依り除役せらるゝたる者及び徵兵年齢に至らざると雖ども第六章第十五條に照し代人料金上納致さゞる者は分家不苦候此旨布告候事

○甲第百六拾七號　同八日

靜岡裁判所長中島錫胤儀暇中休暇を賜候に付過般致出京候處本月三日歸任候旨通知有之候條此旨布達候事

○甲第百六拾八號　同九日

工部省第十四號　八月三日

福岡縣下三池へ電線架設同所へ分局を設置玄本月十日より開局音信料の儀は左の通有之候條此旨布達候事

和文

一三池分局より隣局久留米及熊本へは壹音信料金六錢を拂ふべし

一久留米以東各分局(中津大分共)以西長崎までの各分局より

り三池へは久留米の料金に金壹錢と加へ熊本以南鹿兒島を經て延岡迄の各分局よりは熊本の料金に金壹錢を加へ拂ふべき

歐文

一三池分局より隣局久留米及熊本へは壹番信料金二十五錢を拂ふべき

一久留米以東各分局(中津大分共)以西長崎までの各分局より三池へは番信料は熊本と同さ熊本以南鹿兒島を經て延岡迄は各分局よりは久留米と同さ

○甲第百六拾九號　同十五日

太政官無號　八月十日

北陸東海兩道

御巡幸來る三十日東京　御發輦被　仰出候條此旨布告候事

○甲第百七拾號　同　日

大藏省甲第廿六號　八月十日

第三十四國立銀行發行紙幣の儀同銀行本店大坂府下第壹大區九小區高麗橋五丁目十九番地に於て通貨と交換爲致候旨本年甲第拾五號を以て及布達置候處今般該本店右同府同區高麗橋四丁目六番地へ移轉致し候ゑ付爾後同所に

於て交換爲致候條此旨更に布達候事

○甲第百七拾一號　同十六日

太政官第二十一號八月九日

明治三年八月布告生阿片取扱規則を廢し藥用阿片賣買並に製造規則左の通相定候條此旨布告候事

但し施行の時日は追て內務省より可相達事

藥用阿片賣買并製造規則

第一條　阿片の賣買及び製造は藥用品に限り此規則に依て之を許可し

第二條　藥用阿片は其內國產若くは外國產を論せず總て內務省に於て其品位を定めて之を買上ゞ然る後ち各司藥場より阿片卸し賣特許藥舖に拂下げ之を賣捌かしむべし

但し司藥場を置かざる地方に於ては該地方廳より之を拂下ぐべし

第三條　各司藥場より拂下ぐる所の阿片は量目壹匁を以て一器とし每器司藥場の印紙を貼附すべし

第四條　地方廳は土地の廣狹位置を度り一管內相當の人員を限り藥舖の身元人物を選みて內務省に稟議し鑒札を受けて之を本人に交付すべし

但し廢業せ者ある節は其鑒札を內務省に返納すべ去

第五條　特許鑒札を受たる藥舗の住所姓名は該管轄廳より管內の公私病院醫師藥舗一般に報告すべ去

但し廢業の者ある節も本文に準去速に報告すべ去

第六條　特許鑒札を受たる藥舗は其店頭に特許藥用阿片賣捌所と大書去たる看板を掲げ置くべ去

第七條　特許を受たる藥舗は半年分賣捌の高を豫算去毎年兩度最寄司藥場(司藥場なき地方は該地方廳)に申立て其拂下げを請ふべ去但缺乏の節は臨時拂下げを請ふことを得

第八條　凡そ醫師病院及び一般藥舗等よ於て藥用阿片を要するときは其量目并よ其住所姓名及年月日(病院は其名稱及び院長若くは副長の姓名)を記去調印したる證書を以て特許藥舗に就き之を購求すべし特許藥舗に於ては之と賣渡すお其量目一度に四十匁を超べからず

但去病院及び醫師等に於て便宜に依り一般藥舗に就き之を購求そると一般藥舗相互に賣買そるとは妨げずと雖も必ず本條の證書を以てそべし且其量目一度よ八匁を超べからず

第九條　凡て內外國人共醫師の處方箋を持參去たる者の

外は特許藥舗並に一般藥舗に於て一切之を賣渡すべからず

第十條　特許藥舗は毎半年分阿片拂受並に壹反以上賣捌の高及び買人の住所姓名幷に壹反以下賣捌の總高等明細表正副二通を造り其管轄廳に差出すべし尤壹反以下の分は平常其明細を簿記し置き臨時取調の用に供そべし

但し管轄廳は其一通を內務省に進達すべし

第十一條　醫師病院一般藥舗に於ては毎半年必ず前條明細表を差出そを要せすと雖も平常其明細を簿記し置き臨時取調の用に供そべし

第十二條　藥用阿片を製造せんと欲そる者は罌粟の種類及び培養採收製造の方法を記し管轄廳を經由して內務省の免許鑑札を受くべし

第十三條　阿片製造人は其製造したる阿片の量目を記し署名調印したる願書を以て地方廳を經由し內務省に買上げを願ふべし右買上げを受くるは外決して內外人民に販賣そることを許さそ

但し司藥場に於て其品位藥用に適せざる者とそるときは地方廳より其旨を製造人に通知し其阿片は其廳

に預り置くべき

第十四條　阿片買上げ及び拂下げの代價は歳の豐凶及び外國一般の相場等に因て高低あるべきと雖も其品位又應ずて價格を定むるは該藥主用の性分即ち（モルヒネ）の多少に因るべき

第十五條　内務省に買上げ及び拂下ぐる所の阿片は百分中に（モルヒネ）六分以上十一分に至るまでを含有する者に限るべき

第十六條　此規則に違犯する者は其犯情に從ひ阿片賣買若くは製造を禁ず其所有の阿片を沒收ず百五拾圓より五百圓以下の罰金を科すべき

○甲第百七拾貳號　同十七日

内務省甲第廿三號八月五日

圖書寫眞版權書目並に版權返納の分左の通内務省より布達相成候條此旨布達候事

但し別冊書目は第四第七第十八第二十一第二十四第三十三區事務所へ下渡置候條可承合事

明治十一年四月より六月に至る圖書版權寫眞版權書目及第一號より第六號迄の内版權返納の分別冊の通候條此旨布達候事

○甲第百七拾三號　同廿一日

大藏省甲第廿七號八月十六日

明治九年(八月)第百八號公布を以て發行相成候金祿公債證書の儀は用紙の都合に依り先づ十年分(明治十年より同十九年まで)の利子小札記載有之因て殘る二十年分の利子札は追て別途に下附可致候條此旨布達候事

但し此公債證書は利子小札にも番記號記載有之に付切取の節一枚毎の界へ所持主割印に不及候事

○甲第百七拾四號　同卅一日

大藏省甲第廿八号八月廿七日

新公債証書元金ハ儀發行條例の旨趣に遵ひ本年可拂戻金額拾五萬五百七拾五圓簽ハ數七拾七本内壹本を當り數と定め目今證書の所轄高最多き東京府へ八月廿四日主務の官員出張府下第一國立銀行第十五國立銀行三井銀行爲換會社三菱會社々長及び廣岡助五郎川崎八右衛門田中次郎右衛門等を始め証書所持高巨額なる者拾余名を選で全國証書所持人の總代とし一同の眼前に於て抽簽施行候處即ち印貳拾五圓二〇〇五壹枚此金二拾五圓て印二拾五圓(自壹壹〇壹至二〇四三)九百四拾三枚(自三八四八至三八七六)二拾九枚(自三九六五至四〇四八)八拾四枚此金二萬六千

四百圓ゟ印二拾五圓(自壹至壹三〇)百三拾枚此金三千二百五拾圓て印五拾圓(自二三壹二至二八八九)五百七拾八枚す印(自三〇〇六至三〇二三)十八枚此金二萬九千八百圓て印百圓(自三三八六至三五七五)百九十枚(自三九壹壹至三九五壹)四十一枚(自四〇六六至四〇七〇)五枚す印(自三五六九至三五七五)七枚此金貳萬四千三百圓ゟ印百圓(自三〇六五至三壹三八)七十四枚す印(自四〇六六至四〇六八)三枚此金七千七百圓て印三百圓(自三六八四至三七四五)六十二枚(自三九五二至三九六四)十三枚此金二萬二千五百圓ゟ印三百圓(自三五七六至三六〇二)二十七枚此金八千百圓て印五百圓(自三八〇九至三八四七)三十九枚此金壹萬九千五百圓ゟ印五百圓(自三七四六至三七六三)十八枚此金九千圓に有之前書總代人より方法の公平正實あると保証し右確定候條此段可相心得就ては此番記號の証書所持の者は速に管廳へ可申出管廳に於ては該証書と番記號種類金高枚數人名共詳明調査ゑて合計表を製し元金請取方往返を除の外十日限當省へ可申出此旨布達候事

但し利息金の儀は當八月まで拂渡に付年四朱利月割を以て七八二ヶ月分を計算し一本文表中へ組入可差出且又此布達發表以後は當り簽の證書更に讓渡賣買停止候事

乙第六拾號　八月一日

學區取締
戸長
學校幹事

小學校建築方法得失の儀に付ては明治九年乙第百三拾壹號を以及諭達置候趣も有之候處猶其旨趣貫徹せざるか爾來資力不充分なる村落は新築も洋風摸擬は構造不少抑學舍建築は要は明治十年乙第七拾六號を以て相達候建築法に掲示の通位地其宜を得敷場等其體裁に適ひ新氣を流通去築造堅牢其久きに耐るを主とし外觀の美を飾るは決し

て本意に無之然るに即今建築既成の學舍を觀るよ或は要用あらざる層樓を結搆ま或は窓牖戸壁を彩飾すと雖も其搆造は粗薄にして堅牢ならず所謂外觀は美を競ひ實用は如何を顧みざる狀況なきにも非ず其弊や目下にあつては無用の層樓又は外觀虛飾の爲に幾分の增費を要ま向來にあつては其搆造堅牢ならざるが爲め多年を經ずして修繕改築等の費用を要するに至るべし之を日本風の質素堅牢なる搆造に比べれば其得失利害如何ぞや固より力ある村落に於ては洋風を摸擬ま堅牢美麗なる學舍を建築するも妨げなしと雖ども其力充分ならずして今日の如き築造をなすは當に冗費のみあらず爲に向來維持の方法を障碍ま數育の衰頽を來さすも難計に付右等得失猶篤と研究ま

不都合無之樣取計ふべま此旨再應相達候事

○乙第六拾一號　同九月卅日

陸軍省達甲第十七號七月卅日

陸軍恩給令諸書式中別紙の通加除並ま正誤候旨陸軍省より達有之候條爲心得此旨相達候事

區長

戸長

陸軍各局各官廳

陸軍恩給令諸書式中別紙は通加除並に正誤候條此旨相達

府縣

候事

恩給令諸書式中加除並正誤

一恩給令諸書式恩給願書第五式の欄外(令第十四條の上に(令第十三條)の文字を加ふ

一同第五式第六式第七式第八式は欄外(第三式添書式に準(玄添書を作くるべ玄)は文字を刪除す

一同副書類第一式の欄外へ(令第七十一條に係る明細書は各自の軍隊手帖或は私記に因りて書載玄第何聯隊日記の文字を除くべ玄)と朱字にて加ふ

一同醫家診斷書類第一式第十式(診斷書)を(診斷證書)に改む

一同陸軍官憲證書類第三式の欄外陸軍官憲なき時はの次へ(何(府縣何官何某㊞)の文字を加へ何(府縣)何大區何小區の肩に(府縣廳ハ數里の距離に玄て官員出張差支る時は)と朱字にて加ふ

一同市井官憲證書類第一式に(令第七十三條)は(令第七十一條)の誤

一同進達書類第三式裏面實期區書中服役從軍七ヶ年の次((三十分增加)を(增員乘率)と改む

○乙第六拾二号　同十日

区長
戸長

山口縣於て管下従來醫術開業の者と雖ども試驗を遂げ來候處今般醫籍改正致そに付右試驗濟の者へは開業醫れ證書と授々試驗未濟の者は試驗致そに付當縣下寄留にて前段相當れもの有之候はば本年十二月限り出願候樣達方依頼有之候條各區内ゟ寄留の者有之候はば早々通達可致此旨相達候事

○乙第六拾三號　同廿六日

去る廿三日午後十二時東京ゟ於て近衛炮兵其營所に放火及騒動候處近衛歩兵其背後を衝き玄に依り忽ち潰散過半自首又は脱走致玄同夜鎮定の趣其筋より報知有之付ては此際如何なる訛言流説を傳へ候哉も難圖に付各人民ゟ於て決て動揺不致安心候樣諭達可致此旨相達候事

区長
戸長

○乙第六拾四號　同三十日

内務省乙第五十二號八月五日

区長

戸長

客歳西南の役警視局管理にして戰地へ出張死傷候者恩給扶助の義に付内務省より別紙の通達之有候條各區村に於て死傷の内恩給或は扶助を可仰有權之者有之ば規則に照準出願可爲致此旨相達候事

府縣

客歳西南之役警視局管理より去て九州地方へ出張戰地に於て死傷之者恩給扶助之儀兼て太政官へ及上申候處陸軍恩給令並に同附錄相當扶助等に照據可致旨今般御指令相成候然るに戰死者遺族及び項内傷痍にして廢官免職は者目下生計困難の趣相聞へ候に付本令之手順相立候迄別紙假條例に基づき該廳豫備金を以て繰替遺族は當七月より傷者は其廢免之翌月より夫々表面の内扶助料支給方可取計此旨相達候事

内扶助料假條例

第一條　西征に役出戰死亡の者及び傷痍四項以上にして廢官免職等に係る者陸軍官より兼任の者は甲號表面に警部警部補巡査等は乙號表面に據り死者は其遺族へ（寡婦孤兒）月々月額の内扶助料と支給去傷者は本人へ月々月額十分八之内扶助料を支給すべ去

第二條　父母祖父母又は幼少の弟妹れを在て之を養育せる者あるときは前條に基づき月額十分八の内扶助料を支給すべき

第三條　凡此内扶助料を受くべき者は別紙雛形の願書を以て各自居住地又は寄留地の管廳へ出願し該管廳に於て審査の後副書を爲さ之を警視局に移さ照査を經相當の取扱と爲すべき

第四條　前各種の内扶助料を受る者恩給金下附のときに至れば前に支給する所の分は精算を遂げ返納せさむべし

内扶助料願書雛形

出征別働第三旅團（新撰旅團又何隊）

本陣付
何役　第何大中小隊　何官　某

右明治十年御西征之際從軍中何月何日某の戰地に於て戰死候段何年何月何日別紙之通御達（御口達）相成候就ては何分困窮仕候間何卒内扶助料被下置度尤恩給金被成下候節は返納方如何樣共御指圖通可仕候此段奉願候也

何府縣何大區何小區何町村何番地
居住（寄留）何族
平民

故何官何某寡婦（孤子）

年月日　　何某印

同何族
平民

證人故何某兄弟伯叔父從父兄弟等

年月日　　何某印

書面之趣聊相違無之候也

何府縣何大區何小區

戶長　　何某印

何府知事
縣令何某殿

私儀

陸軍武官ニ非ル警視以下傷痍者並寡婦孤兒扶助料

傷痍者名	一項 月額	内助扶料月額十分ノ八	二項 月額	内助扶料月額十分ノ八	三項 月額	内助扶料月額十分ノ八	四項 寡婦孤兒扶助料	同上助料
少佐	六百圓	五十圓	四十一圓六十六錢七厘	三十圓三十三錢四厘	三百七十五圓	三十一圓廿五錢	二百五十圓	廿圓二錢
大尉	四百四十圓	三十六圓六十六錢七厘	廿九圓廿三錢四厘	三百七十三圓	二百八十三圓	二十三圓三十三錢三厘	百八十七圓	十五圓十八錢
中尉	三百廿圓	二十六圓六十六錢七厘	廿二圓廿三錢四厘	百六十七圓	二百圓	十六圓六十六錢七厘	百三十四圓	十一圓六錢
少尉	二百五十七圓	二十一圓四十一錢七厘	十七圓七三錢四厘	二百十四圓	百六十圓	十三圓三十三錢三厘	百〇七圓	八圓一錢
少尉試補	二百〇五圓	十七圓〇八錢三厘	十三圓六十六錢六厘	百七十一圓	百廿八圓	十圓六十六錢七厘	八十六圓	七圓七錢
曹長	百〇三圓	八圓五十八錢三厘	六圓八十六錢六厘	七十九圓	六十三圓	五圓廿五錢	四十圓	三圓三錢
軍曹	九十六圓	八圓	六圓四十錢	七十四圓	六十四圓	四圓九十三錢四厘	三十七圓	三圓三錢
伍長	七十九圓	六圓五十八錢三厘	五圓廿六錢六厘	六十一圓	五圓〇八錢三厘	四圓〇六錢六厘	三十一圓	二圓八錢
諸卒	七十二圓	六四	四圓八十錢	五十五圓	四圓五十八錢三厘	三圓六十六錢六厘	二十八圓	二圓三錢

一項ハ戦役負傷者ニ月俸全額ヲ給スル限リ適用スベキモノトス

二項ハ戦役負傷者ニ月俸半額ヲ給スル限リ適用スベキモノトス

三項ハ戦役負傷者ニ月俸三分一ヲ給スル限リ適用スベキモノトス

四項ハ戦役負傷者ニ月俸四分一ヲ給スル限リ適用スベキモノトス

軍武官ヨリ兼任警視以下傷痍者並寡婦孤兒扶助料

月額	内扶助料月額十分ノ八	二項 月額	内扶助料月額十分ノ八	三項 月額	内扶助料月額十分ノ八	四項	寡婦孤兒扶助料	同上内扶助料月額十分ノ八	父母祖父母幼少弟妹扶助料
五十圓	四十圓	五百圓	四百圓	三百七十五圓	三百圓		二百五十圓	二百圓	十六圓六十六錢六
三十六圓六十六錢七厘	廿九圓卅三錢四厘	三百七十卅一圓〇八錢三厘	三百圓	二百八十三錢十六錢六	二百圓		廿四圓八十二錢三厘	十五圓五十六錢六厘	十二圓四十八錢三厘
二十六圓六十六錢七厘	廿一圓卅三錢四厘	二十二圓十七錢七厘	百六十七圓	二百十四圓	二百圓		百八十七圓	百三十四圓	八圓九十六錢七厘
二十一圓四十一錢七厘	十七圓十三錢四厘	二百十四圓	十七圓八十三錢三	十四圓廿六錢六厘	百六十圓		百〇七圓	八圓九十一錢七厘	七圓十三錢四厘
十七圓〇八錢三厘	十三圓六十六錢六厘	百七十一圓	十四圓廿五錢	十一圓四十錢	百廿八圓		八十六圓	七圓十六錢七厘	五圓七十三錢四厘
八圓五十八錢三厘	六圓八十六錢六厘	七十九圓	七十九圓	六圓五十八錢三厘	六十三圓		四十圓	三圓三十三錢三厘	二圓六十六錢六厘
八圓	六圓四十錢	七十四圓	六圓十六錢七厘	四圓九十三錢四厘	六十四圓		三十七圓	三圓〇八錢三厘	二圓四十六錢六厘
六圓五十八錢三厘	五圓廿六錢六厘	六十一圓	五圓〇八錢三厘	四圓〇六錢六厘	四十九圓		三十一圓	二圓五十八錢三厘	二圓〇六錢六厘
六四	四圓八十錢	五十五圓	四圓五十八錢三厘	三圓六十六錢六厘	四十五圓		二十八圓	二圓三十三錢三厘	一圓八十六錢六厘

乙號

警視局警部以下戰役死傷者内扶助料

職名＼傷項	相當	一項	月額	内扶助料月額十分ノ八	二項	月額	内扶助料月額十分ノ八	三項	月額	内扶助料月額十分ノ八	四項	葬儀扶助料
大隊長ノ職務ヲ心得タル者	大尉ニ	四百四十八圓	卅七圓卅三錢三厘	二十九圓八十六錢六厘	三百七十三圓	卅一圓〇八錢三厘	廿四圓八十六錢六厘	二百八十圓	二十三圓卅三錢三厘	十八圓六十六錢六厘	服役停年恩給最下限ノ額ヲ一時賜給ス 服役停年最下限ノ額ハ傷痍三項恩給年額ニ同 依テ之ヲ十二ヶ月ニ配賦スルトキハ月額亦同	百八十…圓
中隊長ノ職務ヲ心得タル者	中尉ニ	三百廿圓	二十六圓六十六錢七厘	廿一圓卅三錢四厘	二百六十七圓	二十二圓廿五錢	十七圓八十錢	二百圓	十六圓六十六錢七厘	十三圓三十三錢四厘		百三…圓
少隊長以下士官ノ職務ヲ心得タル者	少尉試補ニ	二百〇五圓	十七圓〇八錢三厘	十三圓六十六錢六厘	百七十一圓	十四圓二十五錢	十一圓四十錢	百廿八圓	十圓六十六錢七厘	八圓五十三錢四厘		八十…
曹長ノ職務ヲ心得タル者	軍曹ニ	九十六圓	八圓	六圓四十錢	七十四圓	六圓十六錢七厘	四圓九十三錢四厘	六十圓	五圓	四圓		三十…
軍曹ノ職務ヲ心得タル者	伍長ニ	七十九圓	六圓五十八錢三厘	五圓廿六錢六厘	六十一圓	五圓〇八錢三厘	四圓〇六錢六厘	四十九圓	四圓〇八錢三厘	三圓廿六錢六厘		三十…
伍長ノ職務ヲ心得タル者及卒	諸卒ニ	七十二圓	六圓	四圓八十錢	五十五圓	四圓五十八錢三厘	三圓六十六錢六厘	四十五圓	三圓七十五錢	三圓		廿八…

警視局警部以下戰役死傷者內扶助料

相當	一項	月額	內扶助料月額十分ノ八	二項	月額	內扶助料月額十分ノ八	三項	月額	內扶助料月額十分ノ八	四項	寡婦孤兒扶助料	同上內扶助料月額	同上十分ノ八	父母祖父母幼少弟妹內扶助料
大尉ニ	四百四十八圓	卅七圓卅三錢三厘	二十九圓八十六錢六厘	三百七十三圓	卅一圓〇八錢三厘	廿四圓八十六錢六厘	二百八十圓	二十三圓卅三錢三厘	十八圓六十六錢六厘	白八十七圓	十五圓五十八錢三厘	十二圓四十六錢六厘		
中尉ニ	三百廿圓	二十六圓六十六錢七厘	廿一圓卅三錢四厘	二百六十七圓	二十二圓廿五錢	十七圓八十錢	二百圓	十六圓六十六錢七厘	十三圓三十三錢四厘	白三十四圓	十一圓十六錢七厘	八圓九十三錢四厘		
少尉試補ニ	二百〇五圓	十七圓〇八錢三厘	十三圓六十六錢六厘	白七十一圓	十四圓二十五錢	十一圓四十錢	百廿八圓	十圓六十六錢七厘	八圓五十三錢四厘	八十六圓	七圓十六錢七厘	五圓七十三錢四厘		
軍曹ニ	九十六圓	八圓	六圓四十錢	七十四圓	六圓十六錢七厘	四圓九十三錢四厘	六十圓	五圓	四圓	三十七圓	三圓〇八錢三厘	二圓四十六錢六厘		
伍長ニ	七十九圓	六圓五十八錢三厘	五圓廿六錢六厘	六十一圓	五圓〇八錢三厘	四圓〇六錢六厘	四十九圓	四圓〇八錢三厘	三圓廿六錢六厘	三十一圓	二圓五十八錢三厘	二圓〇六錢六厘		
諸卒ニ	七十二圓	六圓	四圓八十錢	五十五圓	四圓五十八錢三厘	三圓六十六錢六厘	四十五圓	三圓七十五錢	三圓	廿八圓	二圓三十三錢三厘	一圓八十六錢六厘		

戰役後全ク廢疾ニ陷リタル者ハ其月額ノ十分ノ八ヲ扶助料トシテ一時ニ賜フ

明治十年御西征之際出征別働第三旅團(新撰旅團)(何隊)(本陣付何役)第何大隊何中隊何小隊何官(本部付何役)にて從軍中何月何日某の戰地に於て(面部又は腹部又は何部)へ銃創(劍創)相受過般軍醫診斷よ依り第何項傷痍に策定相成候通にて何分生計差支候間何卒内扶助料被下置度尤恩給金被成下候節は返納方如何樣共御指圖通可仕候此段奉願候也

何府縣何大區何小區何町村何番地居住

(留寄)何族平民

年月日

元何官　何某印

証人願人親戚縁類れ内

何　某　印

同何族
平民

（朱）以下前式に同じ

○乙第六拾五號　同三十一日

区　長
戸　長

神寺遍減祿れ内明治十一年分より同十六年迄の分一時繰上げ給與の儀客歳十二月第百三號公達の趣本年一月十二日付を以て相達ゑ爾後追々願出候向も有之候得共右は取調れ都合も有之候間若し出願洩き相成居候向は來九月十五日限無相違可申出旨遞減祿所有れ社寺へ布達そべゑ此旨相達候事

山梨縣勧業報告第十九號

明治十一年第八月三日發行

昨明治十年七月我内國れ小麥海外輸出の端緒を開きゑより一れ輸出品となり價格意外に勝貴せゑは實に農家の利益のみならず邦家の爲め慶賀すへき事ゑらずや昨年輸出れ初より本年五月迄れ輸出高は現に七百四拾八萬三千三百三拾五斤即ち三萬二千六百五十石余ゑるよゑ（中外物價

新報に依る）右の中歐洲へ輸出の高は僅に一萬八千石余にして其他と總て支那への輸出なりと今外國需用の高を計較するに不列頓の一國よりて一ヶ年の需用高千四百萬石なる由なれば歐洲各國は需用高は果して支那に幾百倍なる言を俟たざるなり然るに歐洲は輸出如是寡く支那は輸出如此多きは何ぞや蓋し品位彼に劣るを以て然るに非ざるを得んや彼倫敦にて日本小麥賣買の現況を見るに彼の小麥は五十二志（我一石に付七圓三十錢位也）内外賣買のとき我小麥は四十二志（我一石に付五圓九十三錢程也）の取引にして現に十志（我一石より付一圓四十一錢程の差）即ち二割の差違あり又以て其品位の果して彼に劣れるを証するに足るべし有志者宜しく此に注目して品位の改良に注意せざるべからざるなり去る明治七年中管下各區（米國小麥の種子を分賦して試驗せしむるに果して其品質善良收獲亦幾分の增加ありといへども該種は收獲は季節内地小麥の收期より凡そ廿余日間程の遲延あるか故に跡作等は都合宜しからざる由申立に依り勸農局へ咨詢せし處未だ全く熟せざるも刈獲指支あきとれ事ゆへ本年初て勸業試驗所に於て試驗せしに左の如く收獲を得たり

一耕地壹反歩　日本種小麥　時付十月二十五日　刈取六月十六日　肥糞三度

此収獲一石八斗五升

一同　米國種早麥　時付右同　刈取六月十八日　肥糞右同

此収獲貳石

一同　同種　晩麥　時付右同　刈取六月廿三日　肥糞右同

此収獲貳石壹斗

現に右の如く其収穫上に指支あき己而あらざ一反歩に就て壹斗五升より貳斗五升迄の増額あれば尚各地に於て各國の良種を精撰去百方試驗をなさば必ず大ひに我地質に適當のものと發見去歐米に劣らざる良品を得るに至る亦疑ひなかるべ去此輸出の端緒を開き去今日に際去苟も品種の改良に注意せざれば獨り自己の利益を損するのミならず無限の國益を振興そるの機會を誤るべし有志者宜去く憤勵去て品種の改良輸出の盛大に注意すべきあり

山梨縣衛生報告第八號　明治十一年第八月

虎列刺病預防法

虎列刺病預防法は發日乙第五十四號を以頒布せりと雖ども猶又其旨趣を敷衍せ去め爰に之を報告そ抑虎列刺病は傳染病あれども自体に其毒氣を感受そるの原由あり其毒氣を感受するの誘因と悪く傳染そる者に非ざ而去て其毒氣を感受するの誘因となる者は飲食衣服運動住所等あり特に飲食より胃腸の病

を誘發す次で該病を發するを最も多とす故に各位胃腸の病を避んことを務むべき乃ち其要を撮列して分類すること左れ如し

有害飲食物

○脂肪多き魚鳥獸の肉及油餡の類

○貝類(但し牡蠣蛤等い害あり此他柔軟なる者は良き然ども夏日は食せざるを可とす)

○干鰯　干貝　青魚　棒鱈の類

○青昆布(但し尋常の昆布を煮熟して食するい佳なり

○鹿尾菜　裙帶菜　昆崙菜れ類

○菌茸　生蔬の類

○獸を生ずたる蒸菓子餅及饅頭の類

○西瓜　眞瓜の類(但し少量なれは害なし

○本邦の慣習にして害なけれども注意すべきもれは鹹漬の類あり鹹漬は經年の者よりは瓜類の(アサ漬)と稍勝れりとす

○辣薤　梅漬れ類多食そべのらそ

○氷は煮沸して飲むを佳とす然ども一度煮沸すを氷中の炭酸を蒸散して要分を脫そる故に煮沸後此器より彼器に移し或は箒茶筌等を以て攪拌し再び氣中の炭酸

を含ましめ飲むべき

○常水を飲用するときは（レセン）油、葡萄酒、酒石酸、沸騰散（炭酸曹達）二分五厘（酒石酸）一分を水三四勺に入れ沸騰に乗じて用ゆ之を一回の量とす）等を混和して用ゆるを佳とす

○荒川の水は其成分を検するに毫も害物なし飲用水に至て適なりと雖ども導水道と流通するの際混淆物に入を恐る故に濾過して用ゆるを佳とす

以上記する處の品物は平常有害の者と云ふ非ず目今劇病預防に爲め可否を論する者あり

無害飲食物

○新鮮の魚肉

但し本縣は海濱に遠隔するを以て川魚の新鮮なる者を食するを佳とす乃ち香魚、鯉、鮒、丙穴魚、鯰、泥鰌、れ類、鰻鱺、或は家鴨は脂肪過多なるを以て多食すべからず

○澱粉質と含める者芋薯れ類

○茶骨非麥

○生牛乳

但し濃厚の煎茶或は骨非を少許混和して用ゆるを佳

とす日日五勺乃至壹合

○無害にして滋養に足る者は尋常け飯一碗に鶏卵一個を渾和する者とそ

○平素酒を嗜むの人俄然禁酒するは宜しからず平素の半量若くは三分の一量を用ゐるを佳とそ

○總て常習を頻に改むるは害あり必す漸次に改むるを佳とす

○食物を煮には銅器と忌む陶製或は鐵製の器と佳とす銅器は白目を塗着すと雖ども用ひざるを佳とそ以上記そる處の品物は人身を滋養する者ゑ去て日常缺くべからざる品物なをども過食すをは却て害となる宜しく柔軟に去て消化し易き品を撰み胃を十分に膨脹せしめざるを注意そべ去

衣服

○衣服の汚垢ある者は特に害あるを以て時々洗濯去て着そべし

○下利の常併ある人は夜臥午睡等にも腹當或は腹巻する を佳とす

○衣服濕濡そるときは速に更換そべ去

○夏日ゐは麻布の白衣を着去白布の襪を穿を佳とす總て

白地の品物と用ゆべき

運動

○運動の過度なる〻身体を疲勞せしむるを以て害ありと雖とも適宜の運動は却て身体を強壯に為消化の機を助くるを以て佳とす

○食後直ちに運動するは害あるを以て三十分時或は一時間を經て運動するを佳とす

但し食後直ち睡眠すると長く午睡するは惡し長きも三時間を過ぐべからず

○精神の感動も過度なれば衰弱を招くの原とある故に精神は爽快ならんことを要す

○全身發汗のまゝ臥褥に就くは宜しからず必ず浴するか又は水に濕したる手巾を以て全身を拭ふたる後臥褥に就くべし

住所

○住所は洒掃を怠ることなく空氣の流通を宜しくすべし居室は床の高きを佳とし若し床下濕氣多き處は所々に風窓を穿ち木炭或は石灰を撒布し所力及乾燥れ居室を撰ふべし又居室近傍に死水を貯ふるは最も宜しからず

○夜臥午睡とも寐室を用ゆるを佳とす

○室内に盆栽を陳列するは晝間は大に益あれとも夜間は宜しからず特に寢室に置くは惡し何となれは植物は晝間は酸素を吐き夜間は炭酸を吐く故なり室内に炭酸過剰ある時は知らず識らず人身に害をなす者なり

○事故ありて止むことを得ず患者に接する時は直ちに稀薄なる石炭酸水にて顔面及手足を洗ふか或は藥氣を嗅ぐを宜しとす故に消毒藥たる所れ石炭酸石礬の類を常に携ふべし又空腹にて患者の家に行くべからす

但し患者に直接したる時毒消と十分よ吉すには衣服及全身にも稀薄れ石炭酸水を注くべし

○此病を甚しく恐るゝ人は流行時には暫らく他處に避居すべし此れ精神れ感動より却て之の病を感受することあればあり

以上記そる處は虎列刺病の預防のみならず諸般の傳染病及流行病を預防するの一助ならん爾他は醫事に關するを以て之を略そ

明治十一年九月

山梨縣第一區甲府常盤町四番地
又新社々主
傍訓並出版人　內藤傳右衛門

（定價金拾錢）

明治十一年九月

兩假名附

山梨縣布達之寫

甲府常盤町四番地
又新社發兌

○

甲第七十五號より百九十一號に至る

○

太政官第廿二號より第廿七號至る

宮内省無號

大藏省甲第廿九號より三十二號に至る

工部省第十五号第十六號

内務省甲第廿四號

○

乙第六十六號より七十二號に至る

○

本縣勸業報告第廿號

兩假名附山梨縣布達寫索引

明治十一年九月

○甲第百七十五號	太政官第二十二號	九月二日 八月廿八日	新舊公債証書條例中改正の廉更に改正	一丁
○甲第百七十六號	宮内省無號	八月廿六日 同四日	皇族方親王宣下	同丁
○甲第百七十七號	太政官第廿三號	九月三日 同六日	開拓使管下札幌へ裁判所設置	二丁
○甲第百七十八號		同九日	官地拜借願並請書書式	同丁
○甲第百七十九號	工部省第十五號	八月廿六日 同日	滋賀縣下敦賀外九ヶ所電信線架設落成	四丁

○甲第百八十號　太政官第二十四號　同十一日　九月七日　内國製フラヂル外二種無税輸出差許　五丁
○甲第百八十壹號　同十二日　縣税徴收する業名の中渡世の可否お不拘許可受べき類　同丁
○甲第百八十二號　太政官第二十五號　同十三日　九月九日　金祿公債証書書入質入賣買解禁　六丁
○甲第百八十三号　内務省甲第廿四號　同十四日　八月十二日　明治十年一月より六月迄村町分合改稱　同丁
○甲第百八十四號　大藏省甲第廿九號　同十六日　十九日月　神奈川縣下第七十四國立銀行開業　同丁
○甲第百八十五號　太政官第廿六号　同十九日　九月十三日　金祿公債証書發行條例中追加　七丁
○甲第百八十六號　同廿六日　靜岡裁判所長甲府支廳へ出張　同丁
○甲第百八十七號　大藏省甲第三十號　同廿七日　九月十六日　舊豐岡縣士族河津祐信より還約可致公債証書本人行方不知　八丁
○甲第百八十八号　工部省第十六號　同廿八日　九月十六日　愛媛縣下丸龜より高知縣下高知へ電線架設　同丁
○甲第百八十九號　太政官第二十七號　同日　九月十九日　賣藥規則中改正　九丁
○甲第百九十號　大藏省甲第卅一號　同日　九月十九日　茨城縣下平民助川佐重所持金祿公債証書紛失　同丁
○甲第百九十一號　大藏省甲第卅二號　同日　九月廿一日　福岡縣士族石川猷助所持金祿公債証書被盜取　十丁

仝 乙號索引

○乙第六十六號　九月四日　本縣各分課改稱　一丁

○乙第六十七號　同五日　後備軍復習の爲召集手續　同丁

○乙第六十八號　同六日　區戶長以下職員進退の節着用品　同丁

○乙第六十九號　同十三日　金祿公債証書保護方法　二丁
内務大藏兩省無號　九月九日

○乙第七十號　同十八日　本縣小學教則改正　四丁

○乙第七十一號　同廿四日　社寺遞減祿の内五分通渡方　同丁

○乙第七十二號　同廿五日　當縣陸軍駐在所移轉　同丁

○

○山梨縣勸業報告二十號

○甲第百七十五號　九月二日

太政官第廿二號八月廿八日

明治八年(五月)第九十五號布告新舊公債證書發行條例第六條第十二節並に同年(八月)第百三十號布告第二條即ち明治十年(三月)第三十四號を以て改正の廉更に左の通改正候條此旨布告候事

新舊公債證書發行條例

第六條

第十二節　元金年賦渡方を爲すに付け下(四月一日)と(五月一日)を改め(十月一日)を(十一月一日)と改む

明治八年〔八月〕第百三十號布告

第二條　證書所持人混淆せざる爲めの下〔九月一日より〕を〔十月一日より〕と改む

○甲第百七十六號　同四日

宮內省無號八月廿六日

右

特旨を以て

仁孝天皇御養子親王よ被復候事

孝明天皇御養子　三品能久王　北白川宮

右今般名を載仁と賜候事

二品熾仁親王弟　易宮

右今般

聖上御養子熾仁親王の繼嗣と被定名を威仁と賜候事

伏宮　載仁王　閑院宮

威仁王　有栖川宮

右本日親王　宜下三品に被叙候事

右布達候事

○甲第百七十七號　同六日

太政官第廿三號九月三日

今般開拓使管下札幌へ裁判所を置き札幌裁判所と稱し宮城上等裁判所々轄被定候條此旨布告候事

○甲第百七拾八號　同九日

自今官地を拜借せんと欲する者は身元慥なる保證人貳人以上を立て別紙第壹號書式に照ったる願書に繪圖面相添出願可致且許可の上は第貳號書式に請書差出すべし此旨布達候事

第一號

何郡何村字
何々何番
官有地拜借願

一何（素地の稱）何町何反何畝何歩或は何坪
此拜借地料（壹ヶ年又は壹ヶ月）金何圓何錢
但壹反或は百坪に付金何程

何ヶ年季

右地所何々用（使用の故を）明記すべし（）に爲め拜借仕度候間御聞届被下度尤御聞届の上は前書拜借料御成規期限の通上納可仕候依之繪圖面相添奉願候以上

山梨縣

何年何月何日

長官宛

甲斐國何郡何町村住士族平民
借主姓　名印
保証人姓　名印
戸長姓　名印

第二號

官有地拜借請書

一　拜借料は前半年分七月十日後半年分一月十日限り年々兩度に上納可仕万一期限通上納不相成上は保証人より上納可仕候

一　拜借期限中たりとも御用に付返地御達の節は御達の日より滿六ヶ月以内に返上可仕候

但　右別段に御達有之節は即刻返上可仕候

一　滿期に至り猶連綿拜借相願候節者遲くも三ヶ月前に猶出願可仕候

右者（何郡何村或は當村字何々官有地拜借相願候處御聞届相成候に付請書差上候也

山梨縣
甲斐國何郡何町村住士族平民

何年何月何日

借主姓　名印
保証人姓　名印

長官　宛

戸長姓　名印

○甲第百七拾九號　同　日

工部省第十五號八月廿六日

滋賀縣下大津電信分局より同縣下敦賀及び石川縣下福井金澤魚津まで並に長野縣下上田より長野を經へ新潟縣下今町柏崎出雲崎新潟に到る電信線架設落成（けわたなどきあがり）右敦賀外八ケ處へ分局を設置し來る九月五日より開局通信料別表の通相

自＼至	大津	彦根	岐阜	名古屋	桑名	四日市	津	岡崎
敦賀	七錢 廿五錢	九錢 五十錢	十一錢 七十五錢	十三錢 七十五錢	十四錢 七十五錢	十五錢 七十五錢	十七錢 一圓廿五錢	十四錢 七十五錢
福井	九錢 五十錢	十一錢 七十五錢	十三錢 一圓	十五錢 一圓	十六錢 一圓	十七錢 一圓	十九錢 一圓	十六錢 一圓
金澤	十一錢 七十五錢	十三錢 一圓	十五錢 一圓廿五錢	十七錢 一圓廿五錢	十八錢 一圓廿五錢	十九錢 一圓廿五錢	廿一錢 一圓廿五錢	十八錢 一圓廿五錢
魚津	十三錢 一圓	十五錢 一圓廿五錢	十七錢 一圓五十錢	十九錢 一圓五十錢	廿錢 一圓五十錢	廿一錢 一圓五十錢	廿三錢 一圓五十錢	廿錢 一圓五十錢
浦和	廿三錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	廿四錢 一圓五十錢	廿二錢 一圓五十錢	廿三錢 一圓五十錢	廿四錢 一圓五十錢	廿六錢 一圓五十錢	廿一錢 一圓五十錢
熊谷	廿一錢 一圓五十錢	廿三錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	廿四錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	廿六錢 一圓五十錢	廿八錢 一圓七十五錢	廿三錢 一圓五十錢
前橋	廿錢 一圓五十錢	廿二錢 一圓五十錢	廿四錢 一圓五十錢	廿六錢 一圓五十錢	廿七錢 一圓五十錢	廿八錢 一圓七十五錢	三十錢 二圓	廿五錢 二圓五十錢
高崎	十九錢 一圓五十錢	廿一錢 一圓五十錢	廿三錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	廿六錢 一圓五十錢	廿七錢 一圓五十錢	廿九錢 二 圓	廿五錢 一圓五十錢
上田	十七錢 一圓廿五錢	十九錢 一圓五十錢	廿一錢 一圓五十錢	二十三錢 一圓五十錢	二十四錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	二十七錢 一圓七十五錢	廿四錢 一圓五十錢
長野	十六錢 一圓廿五錢	十八錢 一圓五十錢	二十錢 一圓五十錢	二十二錢 一圓五十錢	二十三錢 一圓五十錢	二十四錢 一圓五十錢	二十六錢 一圓七十五錢	廿三錢 一圓五十錢
今町	十五錢 一圓	十七錢 一圓廿五錢	十九錢 一圓五十錢	二十一錢 一圓五十錢	二十二錢 一圓五十錢	二十三錢 一圓五十錢	二十五錢 一圓七十五錢	二十二錢 一圓五十錢
柏崎	十七錢 一圓廿五錢	十九錢 一圓五十錢	二十一錢 一圓五十錢	二十三錢 一圓五十錢	廿四錢 一圓五十錢	二十五錢 一圓七十五錢	二十七錢 一圓七十五錢	二十四錢 一圓五十錢
出雲崎	十九錢 一圓五十錢	二十一錢 一圓五十錢	二十三錢 一圓五十錢	二十五錢 一圓五十錢	二十六錢 一圓七十五錢	二十七錢 一圓七十五錢	二十九錢 二 圓	二十六錢 一圓七十五錢
新潟	二十一錢 一圓七十五錢	二十三錢 一圓七十五錢	二十五錢 一圓七十五錢	二十七錢 一圓七十五錢	二十八錢 一圓七十五錢	二十九錢 二 圓	卅一錢 二 圓	二十八錢 一圓七十五錢

津	岡崎	橋豐	松濱	岡靜	津沼	原田小	賀須間	濱横
十七錢 一圓廿五錢	十四錢 一圓十五錢	十五錢 一圓十五錢	十六錢 一圓十五錢	十七錢 一圓十五錢	十九錢 一圓十五錢	十九錢 一圓十五錢	廿三錢 一圓十五錢	廿一錢 一圓十五錢
十九錢 一圓五十錢	十六錢 一圓	十七錢 一圓	十八錢 一圓五十錢	十九錢 一圓五十錢	廿一錢 一圓五十錢	廿一錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	廿三錢 一圓十五錢
廿一錢 一圓五十錢	十八錢 一圓十五錢	十九錢 一圓十五錢	廿錢 一圓五錢	廿一錢 一圓五十錢	廿三錢 一圓五十錢	廿三錢 一圓五十錢	廿七錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓十五錢
廿三錢 一圓五十錢	廿錢 一圓五十錢	廿一錢 一圓五十錢	廿二錢 一圓五十錢	廿三錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	廿六錢 一圓十五錢	廿四錢 一圓十五錢
廿六錢 一圓五十錢	廿一錢 一圓五十錢	廿錢 一圓	十九錢 一圓	十八錢 一圓	十六錢 七十五錢	十六錢 七十五錢	十六錢 七十五錢	十四錢 五十錢
廿八錢 一圓七十五錢	廿三錢 一圓五十錢	廿二錢 一圓	廿一錢 一圓	廿錢 一圓	十八錢 一圓	十八錢 一圓	十八錢 一圓	十六錢 七十五錢
三十錢 二圓	廿五錢 一圓五十錢	廿四錢 一圓	廿三錢 一圓	廿二錢 一圓	廿錢 一圓	廿錢 一圓	廿錢 一圓	十八錢 七十五錢
廿九錢 二圓	廿五錢 一圓五十錢	廿四錢 一圓	廿三錢 一圓	廿二錢 一圓	廿錢 一圓	廿錢 一圓	廿錢 一圓	十八錢 七十五錢
三十七錢 一圓七十五錢	廿四錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	廿五錢 一圓五十錢	二十四錢 一圓五十錢	二十二錢 一圓十五錢	二十二錢 一圓十五錢	二十二錢 一圓十五錢	廿錢 一圓
三十六錢 一圓七十五錢	廿三錢 一圓五十錢	廿四錢 一圓五十錢	二十五錢 一圓五十錢	二十五錢 一圓五十錢	二十三錢 一圓五十錢	二十三錢 一圓五十錢	二十三錢 一圓五十錢	二十一錢 一圓十五錢
三十五錢 一圓七十五錢	二十二錢 一圓五十錢	二十三錢 一圓五十錢	二十四錢 一圓五十錢	二十五錢 一圓五十錢	二十四錢 一圓五十錢	二十四錢 一圓五十錢	二十四錢 一圓五十錢	二十二錢 一圓十五錢
三十七錢 一圓七十五錢	二十四錢 一圓五十錢	二十五錢 一圓五十錢	二十六錢 一圓五十錢	二十七錢 一圓七十五錢	二十六錢 一圓五十錢	二十六錢 一圓五十錢	二十六錢 一圓五十錢	二十四錢 一圓十五錢
三十九錢 二圓	二十六錢 一圓七十五錢	二十七錢 一圓七十五錢	二十八錢 一圓七十五錢	廿九錢 二圓	二十八錢 一圓七十五錢	二十八錢 一圓七十五錢	二十八錢 一圓七十五錢	二十六錢 一圓十五錢
卅一錢 二圓	二十八錢 一圓七十五錢	二十九錢 二圓	三十錢 二圓	卅一錢 二圓	三十錢 二圓	三十錢 二圓	三十錢 二圓	二十八錢 一圓七十五錢

和文
歐文

電信賃錢表

朱書
歐文

一敦賀ヨリ福井
以下二分局ノ和歐文一音信料ハ表面ノ通リタルヘシ

敦賀	福井	金澤	魚津
敦 七錢 廿五錢	福 七錢 廿五錢	金 七錢 廿五錢	魚 九錢 五十錢
十一錢 七十五錢	九錢 五十錢	九錢 五十錢	十一錢 七十五錢

至／自	東京	浦和	熊谷	前橋	高崎	上田	長野	今町	柏崎	出雲崎	新潟
魚津	十七錢 一圓	十五錢 一圓	十三錢 一圓	十二錢 七十五錢	十一錢 七十五錢	九錢 五十錢	八錢 五十錢	七錢 廿五錢	九錢 五十錢	十一錢 七十五錢	十三錢 一圓
金澤	十九錢 一圓	十七錢 一圓	十五錢 一圓	十四錢 一圓	十三錢 一圓	十一錢 七十五錢	十錢 五十錢	九錢 七十五錢	十一錢 七十五錢	十三錢 一圓	十五錢 一圓
福井	廿一錢 一圓	十九錢 一圓	十七錢 一圓	十六錢 一圓	十五錢 一圓	十三錢 一圓	十二錢 七十五錢	十一錢 一圓	十三錢 一圓	十五錢 一圓	十七錢 一圓
敦賀	廿三錢 一圓	廿一錢 一圓	十九錢 一圓	十八錢 一圓	十七錢 一圓	十五錢 一圓	十四錢 一圓	十三錢 一圓	十五錢 一圓	十七錢 一圓	十九錢 一圓

一東京ヨリ新潟迄ノ各分局ヨリ魚津金澤福井敦賀四分局ヘノ和歐文一音信料ハ表面ノ通タルヘシ

一青森線各分局ヨリ魚津以下三分局ヘノ和歐文音信料ハ東京迄ノ料金ニ表面東京ヨリノ料金ヲ加フヘシ

和文
歐文

電信賃錢表

朱書
歐文

敦賀	福井	金澤	魚津
敦	七錢 廿五錢	九錢 五十錢	十一錢 七十五錢
福		七錢 廿五錢	九錢 五十錢
金			七錢 廿五錢
魚			

表面ノ通リ

浦和	熊谷	前橋	高崎	上田	長野	今町	柏崎	出雲崎	新潟
十五錢 二圓	十三錢 一圓 七十五錢	十二錢 七十五錢	十一錢 七十五錢	九錢 五十錢	八錢 五十錢	七錢 廿五錢	九錢 五十錢	十一錢 七十五錢	十三錢 一圓
十七錢 二圓	十五錢 一圓	十四錢 一圓	十三錢 一圓 七十五錢	十一錢 七十五錢	十錢 七十五錢	九錢 五十錢	十一錢 七十五錢	十三錢 一圓	十五錢 一圓
十九錢 二圓	十七錢 一圓	十六錢 一圓	十五錢 一圓	十三錢 一圓	十二錢 一圓 七十五錢	十一錢 七十五錢	十三錢 一圓	十五錢 一圓	十七錢 一圓
廿一錢 二圓	十九錢 一圓	十八錢 一圓	十七錢 一圓	十五錢 一圓	十四錢 一圓	十三錢 一圓	十五錢 一圓	十七錢 一圓	十九錢 一圓

新潟迄ノ各分局ヨリ魚津金澤福井敦賀四分局ヘノ和歐文表面ノ通タルヘシ

分局ヨリ魚津以下三分局ヘノ和歐文音信料ハ東京迄ノ料金ヲ加フヘシ

東京ヨリノ料金ヲ加フヘシ

定候條此旨布達候事

一大津以東横濱迄れ各分局より敦賀以下各分局への和歐文一音信料は表面の通りたるべし

一大津以西各分局より敦賀福井金澤魚津への和文一音信料は一分局を經る毎に大津までの料金に貳錢づゝを加へ歐文は表面れ料金を加ふべき

一大津以西各分局より今町への和文一音信料は大津までの料金と魚津れ料金とを合課し外に貳錢を加へ柏崎へは四錢、出雲崎へは六錢新潟へは八錢を加へ長野へは三錢上田へは四錢高崎へは六錢前橋へは七錢熊谷へは八錢浦

和へは拾錢を加ふ今町への歐文一音信料は魚津と同之
柏崎へは今町の料金に貳拾五錢を加へ出雲崎へは五拾
錢新潟へは七拾五錢長野上田へは貳拾五錢高崎前橋熊
谷浦和へは金五拾錢を加ふべ之
但し東京への和歐文音信料は從前の通りたるべ之

○甲第百八拾號　同十一日

太政官第二拾四號九月七日

內國製ッシル紋羽綾木綿の三種無稅輸出差許候條此旨
布告候事

○甲第百八拾壹號　同十二日

明治十年本縣第百八十九號布達縣稅を徵收そる業名中川
沼漁業獵銃れ外獵業及び馬車人力車荷積車の類い渡世の
爲にそると否とに拘はらず規則れ通願出許可を受くべき
儀と心得ふべ之此旨布達候事

○甲第百八十二號　同十三日

太政官第貳拾五號九月九日

明治九年(八月)第百九號布告を以て金祿公債證書書入質入
並に賣買約定取結候儀及禁止置候處右證書下付候上は書
入質入賣買不苦候條此旨布告候事

○甲第百八拾三號　同十四日

内務省甲第廿四號八月十二日

明治十年一月より六月迄分合改稱等の村市左之通内務省より布達相成候條此旨布達候事

但し別冊は第四第七第十八第廿一第廿四第三十三區事務所へ下渡置候條可承合事

明治十年一月より六月に至る半ケ年間分合改稱等の村市別冊之通有之候條此旨布達候事

○甲第百八拾四號　同十六日

大藏省甲第廿九號九月十日

今般國立銀行條例を遵奉之神奈川縣下横濱南仲通二丁目二十一番地に設立したる第七十四國立銀行に於て公債證書を抵當とし更に引換準備金を置き銀行紙幣を發行せ之め右本店に於て通貨を以て交換爲致候條公債證書の利足と海關税を除くの外租税其他一切公私の取引上總て無疑念授受可致此旨布達候事

但之右紙幣の儀は明治十年第九十號並に本年十六號布告の品と同一に付別段見本相添へざる事

○甲第百八拾五號　同十九日

太政官第二拾六號九月十三日

明治九年〔八月〕第百八號布告金禄公債證書發行條例第二條

但書左の通り追加候條此旨布告候事

金祿公債證書發行條例

第二條

此公債證書の利子云々

但利子下げ渡し混淆せざるため毎年四月一日より五月廿八日迄十月一日より十一月廿八日迄は證書の讓渡し賣買等を見合せべし

○甲第百八拾六號　同廿六日

靜岡裁判所長中島錫胤儀御用都合に依り本月廿二日發途甲府支廳等へ出張候に付不在中判事人見恆民代理致し候旨通知有之候條此旨布達候事

○甲第百八拾七號　同廿七日

大藏省甲第三十號九月十六日

秩祿公債證書明治七年發行五拾圓ち印貳七九四番壹枚貳拾五圓ち印一二九九番一三〇〇番二枚右は兵庫縣下豐岡縣士族河津祐信より還納可致證書に有之候處本人行方不知旨届出候條以後右ハ證書一切取引を爲すべからず且其所在を見聞候者ば速に管轄廳へ訴出管轄廳よりは即當省へ可届出此旨布達候事

○甲第百八拾八號　同廿八日

工部省第十六號九月十六日

愛媛縣下丸龜電信分局より同縣下今治松山及び高知縣下高知へ電線架設右三ヶ所へ分局を設置ス本月廿五日より開局音信料の儀松山高知は明治十年十月當省第十三號布達電信賃錢表の通り今治は左の通りに有之候條此旨布達候事

和文

一今治分局より隣局丸龜及び松山へは壹音信料金六錢を拂ふべシ

一丸龜高松徳島撫養及び岡山以東以西各分局より今治へは丸龜の料金に金壹錢を加へ宇和島高知の二分局より松山の料金に金壹錢を加ぶべシ

歐文

一今治分局より隣局丸龜及び松山へは壹音信料金貳拾五錢を拂ふべシ

一丸龜高松徳島撫養及び岡山以東以西各分局より今治へは松山と同シ宇和島高知の二分局より丸龜と同シ

○甲第百八拾九號　同　日

太政官第廿七號九月十九日

明治十年〔一月〕第七號布告賣藥規則中左の通改正候條此旨

布告候事

第二條　其管轄廳の下（を經由して內務省）の八字を削る

第三條　（內務省）の三字を（管轄廳）に改め（毒藥）の下ゟ（劇藥）の二字を加ふ

第五條　免許鑑札を受の下（け管轄廳は之を內務省へ届出）の十三字を削り（く）の一字を加ふ

第十條　第十九條但書（有毒）を（有害）に改む

○甲第百九拾號　同　日

大藏省甲第三十一號九月十九日

茨城縣下上市裏南町平民助川佐重所持の金祿公債證書拾圓丙り印六七五壹番壹枚去月十九日夜紛失の趣届出候條以後右の證書一切取引を爲すべからず且其所在見聞れもの は速ゟ管轄廳へ訴出管轄廳よりは即當省へ届出此旨布達候事

○甲第百九十一號　同　日

大藏省甲第三十二號九月廿一日

東京府下寄留福岡縣士族石井猷助所持ヒ金祿公債證書拾圓丙と印（自七一六〇番至七一六三番）四枚本月三日盗難に罹り候旨届出候條以後右の證書一切取引をなすべからず且其所在見聞のものは速に管轄廳へ訴出管轄廳よりは即

當省へ可届此旨布達候事

區長
戸長

○乙第六拾六号　九月四日

此般本縣各分課之儀從前之第一課は庶務課第二課ハ勧業課第三課租税專務は租税課同土木專務は土木課第四課は警保課第五課は學務課第六課は出納課と相改候條爲心得此旨相達候事

區長
戸長

○乙第六拾七號　同五日

後備軍復習ヒ爲め來る十月七日より召集候旨其筋より通報有之最召集手續の儀は當縣駐在曹長より通達可相成筈に候得共兼て該兵へ可申達置就ては本人共へ附與そべた旅費の儀は昨十年乙第廿九號を以て相達候通相心得調査の上前以て受取方可申出若事故あり期限に迫り受取方間に合兼候義も有之ば一時區費を以て繰替渡方可取計置此旨相達候事

○乙第六拾八號　同六日

區長
戸長

昨十年乙第百十四號を以て區戸長以下職員（區書記小學訓導及學校幹事々務掛等）進退の節其代人に限り羽織袴を以て禮服に代用不苦旨相達置候處自今本人と雖ども同樣不苦候條此旨更に相達候事

○乙第六拾九號　同十三日

内務大藏省無號九月九日

各學校
區長
戸長

金祿公債證書保護の方法取設の義に付左の通内務大藏兩省より布達相成候條金祿公債證書下賜れ者へ可相達此旨

相達候事

今般金祿公債証書々入質入並に賣買約定取結候儀ハ差閊候處從來家祿賞典祿を以て專ら生計を營來り候者共別に前途營生の目的も不相立右公債証書を以て輕々敷一時金融の便を計り又は目下困難相逼り深く其得失と不顧格外の低價を以て取引致ス損耗相招候者往々可有之哉も難計候に付此際別紙手續書の通右公債証書保護の方法取設候條望の者は管轄廳へ可願出此旨金祿公債証書相渡候者へ布達候事

金祿公債証書保護手續書

第一條

金祿公債証書下付の後孤兒寡婦は勿論其他何人に限らず右証書保護方に差支ゆる等の者保護方を本管廳又は寄留管廳へ願出るゆ於ては各管廳にて其公債証書を預り預け主へは預り証書を下付ス其公債証書に對し預け主へ年々利子渡方及び當籤れ節元金渡方等をあすべし

第二條

金祿公債証書買上げ方を願ふ者は本管廳又は寄留管廳へ書面を以て其旨甲出べ ス然るときは証書百圓に付五分利付の分は六拾四圓六分利付の分は七拾三圓七分利付ハ分

は八拾貳圓一割利付の分は百圓の割合を以て買上げ致すべくに付各管廳に於て其願を一ヶ月限一と纏に致し上申書を副へ大藏省へ稟請すべし

但し大藏省は都合により買上方を差止ることあるべし

第三條

前條に所謂金祿公債証書を預り又は買上げをなす者は今般官廳より本人へ下賜たる金祿公債証書に限るべし他より書入質入又は買入せー金祿公債証書は此例に依ることを得ず

以上

○乙第七拾號　同十八日

各學校

本縣小學敎則別冊の通り改正候條自今右敎則に依り敎授可致尤此達書到着より六十日以内ヶ昇級試驗を受くべき生徒は舊敎則を以て試驗を遂ず候條夫迄は舊敎則に依り敎授可致候此旨相達候事

但し從前諸達書の内此改正敎則に抵觸の者は渾て廢止の儀と可相心得事

○乙第七十一號　同廿四日

區長

社寺遞減祿之內明治九年分凡積を以て五歩通相渡候に付
物代(神社は氏子寺院は旦家)二名以上連署戶長奥書の證書
持參受取方出納課へ可申出旨遞減祿有之社寺へ可相達此
旨相達候事

但玄明治七八兩年分七歩通未ゞ不受取候向は本文同樣
受取方可申出尤私聖地の分は方今取調中に付渡方の儀
は追て可相達事

戶長

○乙第七拾弐號　同廿五日

區長

當縣陸軍駐在官駐在所の義今般第一區金手町敎安寺へ移轉相成候條爲心得此旨相達候事

戶長

○山梨縣勸業報告第廿号

明治十一年第九月廿五日發行

織物は縣下無比の名產にして已ゞ世人の爲に賞愛せらるゝゝと久玄就中甲斐絹織蝙蝠傘地の如きと近來殊に聲價を得て其の產額の增加する事年一年より夥去く愈々旺盛の域に進せんとす。此の有樣を以て看をば今一歩を進むる時は殆と外國の輸入を遮絶するに足るの況勢をりと雖ど

も惜哉其れ色染の方法よ至ては美を盡未だ善と盡さざるものの如ぐ所謂隔靴掻痒の遺憾あきこと能いざるなり

それ織物と色染とは恰も車の兩輪の如く互みに缺く可らざる者あれば俱に相進みて其れ完然あるを得るに非ざれば其に精良の品位とは稱ふ可らざるあり試みゐ視よ假令ひ織物れ質は强韌に去て能く數年の久きに耐もるも若し其か色染の方粗末に去て一度び流液に浸す時は忽ち其れ素色を變ぜるか如きことわら去めば誰か該品を以て精良れもものとなさんや是を其の勸業場に於て色染織工所を設立去專ら有志者を勸奬めて此の方法の進渉を促す所以

あり。望らくは世の該業に從事する者は須らく玆に注目去て益々此の法れ開達せん事を期すべきあり

這回右の色染所に於てい各種の染料を獨逸國より購求し詳密に其の方法を討竅去代料も亦た勉めて廉値ならんことを要去專ら諸人れ望みに隨て染出そべけれは望の向は當分のうち左の各色に限り之を勸業場に申稟せよ

但去染料注文中なをば目今左の十種に限ると雖ども是は唯概畧を揭ぐる而已詳かに其の種類を識別それば尙は數十種の各色となるべ去然をども色相のことは能く筆紙の盡す所にあらざをば其れ詳細を知らんと欲する

者は本場に來て其の見本を閲覧すべし

一茶色　各種　　一鼠色　各種
一紫色　同　　一緋色　同
一黄色　同　　一青色　同
一黒色　同　　一紺色　同
一萌黄色　同　　一橙色　同

此他れ色相は染料到着の上更に之を報告そへし

○乾柹子は縣下菓物中その産出の高は葡萄に次て夥多なく且り其の名物たるの聲價と占得たる事は普く世人の知る所にして在留の外國人も稍々之を好で嗜ミ近頃に至ては晩餐の後には必ず之を食用に供することとはなれり

然れども此菓實の外國へ輸出せー事は未ざ曾て聞ざる所あり去が(歐羅巴には從來柹子(洋名ぺるぎんもん)れ産出甚だ稀なり僅に伊斯班厄亞の地方に産そる而已といふ故に在留の外國人も最初の程は其性質の何物たるを知らず或は之を無花菓の一種と誤認せし者ありき)此程東京三井物産會社より報し來きる書中に言ふ。方今佛國に於ては大に之に嗜好む者多く就中本縣産のもれ評判甚た宜しきに付今回試みに之を該國に輸送致度云々。是に因て之を觀に今一層其製造に注意去及び其貯蓄法を改良せば是より

輸出の端緒を開き數年あらざゝて本縣輸出物産の一部を增殖すべきならん果て然らは獨り其の製造者の幸ひ而已にあらざるあり有志者宜しく茲に意を注ぎ益々該品製造の盛大あらん事を計るへし

附言 方今舶來せし剝菓皮器械は甚た輕便簡易なる者にて成畫に去て猶能く一日に數百顆の菓皮を剝除するを得るあり而て其代價も亦極めて廉もの なれは不日勸業場鑄造所に於て之と製造去相當代價を以て望の者へ排ひ下ぐ可し

但製造出來の節は更に之を報告そべし

○昨明治十年中勸業試驗所(甲府舊城内)に於て米國産各種の葡萄を培養せしが何れもよく地味に適應せり今其菓實を以て之を縣下在來のものに比較れは其顆形大に去て味甚た甜く且つ淡泊なり(或は少去く麹臭と蔕ひたる者あり)之を要するに生菓は儘食そは或は本縣種のものに及ばざるもの有と雖とも設去之を釀造の用に供そは必ず良好れ酒類を得べきならん。夫れ城内の如き新開の地よして猶且つ如斯き繁殖を得さり若し之を勝沼。岩崎。祝。村等の如き葡萄適應れ地に於て栽培せば必ず莫大の收獲を得へ去

今北苗十三種を採て左の代價の割を以て之を有志者に分賦んとす望の者は勧業場に申請ふ可し

○米國種葡萄苗

一 ブラッキボッカンデー種
一 グレインホングレン 同
一 ホワイトナボレチン 同
一 ブラッキロンバルデー同
一 カトウーブル 同
一 トウケー 同
一 ホワイトトーケー 同
一 スウサートワーク 種
一 モスケット 同
一 ブランキヘンボロック同
一 イスベラ 同
一 カルホルニヤ 同
一 レーデーマンソン 同

右何をも一本に付代價金三錢。十本以上五十本に至る二錢八厘替五十本以上百本に至る二錢五厘替。百本以上二錢替

明治十一年十月

山梨縣第一區甲府常盤町四番地
又新社々主
傍訓出版人　内藤傳右衛門

（定價七錢）

明治十一年十月

兩假名附

山梨縣布達之寫

甲府常盤町四番地
又新社發兌

○
本縣甲第百九十二號より二百廿三號に至る
○太政官第廿八號より第三十四號に至る
內務省甲第廿五號廿六號
大藏省甲第三十三號より四十六號に至る
陸軍省甲第廿一號
海軍省甲第二號
工部省第十七號
開拓使甲第八號九號
○乙第七十三號より八十三號に至る
海軍省乙第八號

布達之寫

索引

明治十一年
第十月

假附山梨縣布達之寫索引

○甲第百九拾二號　十月一日　教導團諸兵科生徒入學願許　一丁
○甲第百九拾三號　同二日　製氷營業の者は前以て檢査可受　七丁
內務省甲第廿五號　九月廿日
○甲第百九拾四號　同日　東京府下第四十四國立銀行開業　同丁
大藏省甲第三拾三號　九月廿四日
○甲第百九拾五號　同三日　酒類稅則改正追加　同丁
太政官第廿八號　九月廿八日
○甲第百九拾六號　同四日　銀行稅額徵收期限　十一丁
太政官第廿九號　九月廿八日
○甲第百九拾七號　同日　銀行紙幣見本紛失　同丁
大藏省甲第三十四號　九月廿八日

○
本縣甲第百九十二號より二百廿三號に至る
○太政官第廿八號より第三十四號に至る
内務省甲第廿五號廿六號
大藏省甲第三十三號より四十六號に至る
陸軍省甲第廿一號
海軍省甲第二號
工部省第十七號
開拓使甲第八號九號
○乙第七十三號より八十三號に至る
○海軍省乙第八號

布達之寫索引

明治十一年
第十月

可假山梨縣布達之寫索引

名附

○甲第百九拾二號　十月一日　激導國諸兵科生徒入學差許　一丁
○甲第百九拾三號　同二日　内務省甲第廿五號　九月廿日　製氷營業の者は前以て檢査可受　七丁
○甲第百九拾四號　同日　大藏省甲第三拾三號　九月廿四日　東京府下第四十四國立銀行開業　同丁
○甲第百九拾五號　同三日　太政官第廿八號　九月廿八日　酒類稅則改正追加　同丁
○甲第百九拾六號　同四日　太政官第廿九號　九月廿八日　銀行稅額徵收期限　十一丁
○甲第百九拾七號　同日　大藏省甲第三十四號　九月廿八日　銀行紙幣見本紛失　同丁

○甲第百九拾八號　同　日　明治九年甲第二號布達但書改正　同　丁
大藏省甲第三十五號　九月廿八日

○甲第百九拾九號　同五日　安藝備後兩國郡界定　十二丁
內務省甲第廿六號　九月廿七日

○甲第二百號　同　日　株式取引條例中稅額定　同　丁
太政官第三十號　九月三十日

○甲第二百一號　同　日　國立銀行條例第五十七條改正　同　丁
太政官第三十一號　十月一日

○甲第二百二號　同八日　本年甲第廿八號布達正誤　十三丁
大藏省甲第三十六號　十月二日

○甲第二百三號　同十四日　錺職鑄物職ハ實印ヲ彫鑄ス者ハ印刻營業規則ニ可依準　同　丁

○甲第二百四號　同　日　靜岡裁判所長歸任　同　丁

兩假山梨縣布達之寫　一冊
名附

內務卿伯爵伊藤博文

○甲第二百五號　同　日
開拓使甲第八號　十月五日　石狩國札幌郡ヶ内新村設置　十四丁

○甲第二百六號　同十五日
大藏省甲第三十九號　十月七日　茨城縣下第五十國立銀行開業　同　丁

○甲第二百七號　同　日
大藏省甲第四十號　十月七日　東京府下第百國立銀行開業　同　丁

○甲第二百八號　同　日
海軍省甲第二號　十月七日　鈴木清吉原籍調　十五丁

○甲第二百九号　同　日
大藏省甲第四十一号　十月七日　東京府下第六十國立銀行開業　同　丁

○甲第二百十號　同十七日
工部省第十七號　十月十日　山形電信分局より秋田縣下横手迄電線落成　十六丁

○甲第二百拾一號　同十八日
開拓使甲第九號　十月十一日　札幌より根室への街道中人馬繼立　十七丁

○甲第二百拾弐號　同　日　秩祿公債証書抽籤施行　同　下
大藏省甲第三十七號　十月四日

○甲第二百拾三號　同十九日　金札引換記名公債証書抽籤施行　廿五丁
大藏省甲第三十八號　十月五日

○甲第二百拾四號　同廿一日　内國船難破并漂流物取扱　廿七丁
太政官第三十二號　十月十五日　規則中增加

○甲第二百拾五號　同廿二日　陸軍士官學校生徒志願の者　同　丁
陸軍省達甲第廿一号　十月十二日　入學差許

○甲第二百拾六號　同廿五日　遊式註遊條例中改正　廿一丁
太政官第三十三號　十月廿一日

○甲第二百拾七號　同　日　明治十年第七拾九號布告中追加　廿二丁
太政官第三十四號　十月廿一日

○甲第二百拾八號　同廿八日　櫟木縣下第四十一國立銀行開業　同　丁
大藏省甲第四十二號　十月廿三日

○甲第二百拾九號　同　日　茨城縣下第百四國立銀行開業　同　丁
大藏省甲第四十三號　十月廿三日

○甲第二百二拾號　同廿九日　群馬縣下第四十國立銀行開業　廿三丁
大藏省甲第四十四号　十月廿三日

○甲第二百二拾壹號　同　日　群馬縣下第三十九國立銀行開業　同　丁
大藏省甲第四十五號　十月廿三日

○甲第二百二拾二號　同　日　茨城縣下第百二十國立銀行開業　廿四丁
大藏省甲第四拾六號　十月廿三日

○甲第二百二拾三號　同三十日　諸遊藝に儀事情不得止者の外營業不許　同　丁

仝　乙号索引

○乙第七拾三號　十月一日　内務省乙第五十二號達一項欄内の金額取消　一丁

○乙第七拾四號　同二日　水害に依て破壞せし堤防道路橋梁等修繕御達　同丁
○乙第七拾五號　同五日　後備軍召集の節病氣事故等にて其期に後るゝ者取斗方　二丁
○乙第七拾六號　同日　金祿公債証書買上方　同丁
○乙第七拾七號　同七日　明治九年度各酒釀造稅に用る改正相場　三丁
○乙第七拾八號　同日　明治十年度右同斷　同丁
○乙第七拾九號　同九日　常備兵卒は內後備軍適當の者は可願出　四丁
○乙第八拾號　同廿三日　明年徵兵適齡に者下調爲檢査掛官員巡回　五丁
○乙第八拾壹號　同日　後備軍在籍の者國法を犯し他へ拘引並に解放相成候節は可届出　同丁
○乙第八拾二號　同廿五日　海軍省所轄丁士以下に者藥家離縁復籍等届出方　六丁
海軍景乙第八號　十月十五日
○乙第八拾三號　同三十日　警視局管理戰地出張に者戰闘履歷届書式　同丁

○甲第百九拾二號　十月一日

今般教導團諸兵科生徒補欠と云て華士族平民を不論志願の者は明年徴兵適齢に者と雖も撰抜入學差許候旨陸軍省より達有之候條別紙陸軍教導團諸兵科生徒召募格例熟覽の上志願の者は來る十月三十日迄に書式に願爾相認め當廳へ可差出此旨布達候事

陸軍教導團諸兵科生徒召募格例

第一條

今般補欠と云て召募する生徒は府縣の華士族及び平民中陸軍出身志願に者平素行狀方正にして撰査の定格に合そ

る者を以て之に充つ

第二條

此生徒は諸兵の下士に要用の學術を教授し速かに成業せしむるを目的とす其科目及び時限等は別紙教則表に掲示せ

第三條

定科の學術卒業の上は下士に任じ其兵種の隊伍に分属し各其職務を奉ぜしむ但し修業中行狀不正にして罰科多き者い卒業に至ると雖其撰に當らず

第四條

其學術秀逸にして殊に行狀方正の者は之を撰拔し更に士官學校に轉入せしめ將校の學科を教授せ

第五條

生徒修業中は學術を修し成業を目途と爲せを以て一切休暇歸省等を許さず修業中は除團せざると勿論と雖も病患に依て兵役に堪難き者は檢査し上退團せしむべし

第六條

服役年限は下士に撰任すべば修業し時日を除き全く七ケ年とす

第七條

修業中は被服食料諸器械等一切官費たるべ去且若干の日給を與ふ

第八條

入學の者檢査の定格左の如去

第一則　年齢　自十八年至二十五年

但學科秀逸にして後來武班に望みある者は十八年に滿たずと雖採用も

第二則　身長　砲兵は曲尺五尺二寸以上其他の諸兵は五尺以上とも

但十八年未滿れ者は四尺八寸以上とす

第三則　身體　體格强壯の者就中喇叭は齒列齊密なる者

第四則　寫字　書東往復に稍差支なき者

第五則　讀書　練兵書等を讀得る者

第六則　算術　加減乘除を能そる者

第九條

入國志願の者願書左の如去

敎導國入學願　料紙美濃白紙

何府(縣)何族(平民)

(亡)父(兄)何男(弟)

何國何郡何處產
何國何郡何處住
（何國何郡何處寄留）

何兵科聊叺志願　姓名

明治十一年何月何年何日

右之者此度教導團へ入學奉願候處行狀方正之者に候間御撿査之上御採用被下度固より入團之上は御規則嚴重に相守可申且又當人身上之儀は何事に依らず私共引受可仕依て本人履歷書相添此段奉願候以上

身元引受人

何府（縣）何族（平民）

何國何郡何處住
（何國何郡何處寄留）　姓名印

同斷

同斷

右之通願出候に付進達仕候也

何府（縣）何郡（區）戶長　姓名印

陸軍教導團生徒撿査官（東京府に在ては生徒撿査官の五字を省く）

御中

年號月日

前書之通相違無之候也

何府（縣）知事（令）　姓名印

年號月日

第十條

履歷書は左れ雛形に照準そべき

何年何月日種痘（天然痘）

何府（縣）何族（平民）　姓名　年號月日生

一何年何月日被任何官（被補何廳何等出仕）（被免本官）

（出仕被免）

一何年何月日より何日迄何學校（塾）に入り教師某に就て何學何迄を學ふ

一何年何月日より何日迄何學研究（商業）の爲め何處（海外）に留學

一何年何月日何々に依て賞典何々下賜る

一何年何月日何々れ科に依て何罰申付らる其他渾て身上の履歴に係る者は記載すべき

右之通に候也

年號月日　身元引受人　姓名印

姓名印

第十一條

志願人は檢査官の通知次第定められたる檢査地方へ到り該區長又は郡戸長に止宿等届け置くべき

第十二條

檢査場出頭の往復並に滯在及び合格の者出京を命ずる節

等は左の旅費及び滯在日當を與ふ此金は該地方官に於て繰替置き追て明細表を以て教導團へ償却を請ふべし

但し檢査場出頭往復の旅費及び滯在日當は檢査の合不合の者に不拘之を給そ

一府縣管内檢査場出頭往復の者旅費一日十里詰金貳拾四錢滯在一日日當金二十二錢

一府縣管外檢査場出頭往復の者旅費一日十里詰金四拾錢滯在一日日當金二十二錢

一檢査合格出京の者旅費一日十里詰金四拾錢滯在一日日當二十二錢

但し檢査場往復及び出京旅費共一里以上六里未滿は一日分の半數と給し一里未滿は算せず近傍片道六里以上十里未滿は貳拾四錢滿五里は金拾貳錢を給し且つ一泊すれど拾六錢を給そ五里未滿は旅費は給せずと雖ども一泊すれは拾六錢を給す

第十三條

入團の上は軍人となり遂に下士の任を蒙むるべきを以て入團のとき其忠志確實を証するが爲め誓文をあさしむ

教導團教則表

科術			
歩兵	騎兵	砲兵	工兵
操 体操學 生兵學 小隊學 撤兵學 大隊學 練	操 徒歩學準備 同生兵學 同小隊學 同撤兵學 同大隊學 乘馬學準備 同生兵學 同小隊學 同大隊學 馬學準備 同生兵學 同撤兵學 同小隊學 同大隊學 練	操 徒歩學準備 同生兵學 同小隊學 同大隊學 乘馬學準備 同生兵學 同小隊學 同大隊學 砲熕使用 山野砲及攻城砲兵 駄馬者 分隊學 小隊學 練	操 体操學 生兵學 小隊學 撤兵學 對壕學 火坑學 橋船學 野堡學 測地學 練
射的術	射的術	銃砲射的術	射的術
守衛勤務	守衛勤務	守衛勤務	守衛勤務
野戰要務	野戰要務	野戰要務	野戰要務
野堡建築		砲臺建築	
水泳術	水泳術	火具製作	
算術 數學 比例 平方立方	算術 數學 比例 平方立方	水泳術	
畫圖 行軍路程圖	畫圖 測地概畧	算術 數學 代數學 平面幾何 三角術	水泳術
		畫圖 砲熕 砲臺 測地 野堡 寫景	算術 數學 代數學 幾何學 三角術
畫圖			畫圖 測地 寫景

科學			
內務	內務	內務	內務
軍律	軍律	軍律	軍律
日本地理小誌	馬學	馬學	造屋學
日本畧史	日本地理小誌	彈道概畧	日本地理小誌
	日本畧史	日本地理小誌	日本畧史
		日本畧史	

備考

學術ノ口授ハ諸演習休憩中適宜ノ時間ヲ課シ以テ之ヲ教授スシムヽアルヘシ

學術進歩シテ未タ期限満タスシテ諸科通業スレハ學術中緊要ノ科ヲ復習ナサ

諸兵卒業ノ期限ヲ概ヲ定ムルヽト雖ヒ學術進歩ノ遲速又ハ時勢ノ景況ニ依リ此期限ハ屢々増減スルヽアルヘシ

歩兵騎兵ハ十六ヶ月ヲ以テ卒業トス

砲兵工兵ハ二十ヶ月ヲ以テ卒業トス

○甲第百九拾三號　同二日

内務省甲第廿五號九月廿日

近年製氷營業人不潔なる氷を製造候者有之不都合なる儀ゝ付自今右營業の者は毎年製造の節並に翌年發賣の節共前以管轄廳（東京府下は東京警視本署）へ伺出檢査を受候樣可致此旨布達候事

○甲第百九拾四號　同日

大藏省甲第三十三號九月廿四日

今般國立銀行條例を遵奉し東京府下新泉町五番地に設立之たる第四十四國立銀行に於て公債證書を抵當と致更ゝ

引換準備金を置き銀行紙幣を發行せ之め右本店に於て通貨を以て交換爲致候條公債證書の利足と海關稅を除の外租稅其他一切公私の取引上總て無疑念授受可致此旨布達候事

但之右紙幣の儀は明治十年第九十號並に本年第十六號布告の品と同一に付別段見本相添へざる事

○甲第百九拾五號　同三日

太政官第廿八號九月廿八日

明治八年(二月)第二十六號布告酒類稅則同年(七月)第百貳拾貳號布告同則追加十年(十二月)第八十壹號布告同則追加共

更に左の通改正追加之本年十月一日より施行候條此旨布告候事

明治八年第貳拾六號布告酒類稅則

第一則中

第二條

一酒造營業免許を受たる者は其造石數に應之釀造稅と之て年々左の通上納可致事

一清酒壹石に付　金壹圓

一濁酒同　金三拾錢

一白酒同　金貳圓

引換準備金を置き銀行紙幣を發行せ玄め右本店に於て通貨を以て交換爲致候條公債證書の利足と海關稅を除の外租稅其他一切公私の取引上總て無疑念授受可致此旨布達候事

但玄右紙幣の儀は明治十年第九十號並に本年第十六號布告け品と同一に付別段見本相添へざる事

○甲第百九拾五號　同三日

太政官第廿八號九月廿八日

明治八年(二月)第二十六號布告酒類稅則同年(七月)第百貳拾貳號布告同則追加十年(十二月)第八十壹號布告同則追加共

更に左け通改正追加玄本年十月一日より施行候條此旨布告候事

明治八年第貳拾六號布告酒類稅則

第一則中

第二條

一酒造營業免許を受たる者は其造石數に應玄釀造稅と玄て年々左の通上納可致事

一清酒壹石に付　金壹圓

一濁酒同　金三拾錢

一白酒同　金貳圓

一味淋同　金貳圓
一燒酎同　金壹圓五十錢
一銘酒同　金三圓

第三條

一醸造税は毎年四月三十日限り見込届石數に相當する税金の半額を上納し殘餘は九月三十日限り皆納可致事

第二則中

第四條

一造酒は地方廳主任官員檢査可致候條其時宜可届出候事
但去本文檢査の外主任官員臨時巡回し酒もと並にもろみ其他酒造に用ふる元米等を檢査そること可有之事

第五條

一醸造税地方廳へ上納皆濟期限前非常の災害或い腐敗等の儀有之節は其旨直に地方廳へ届出主任の官員檢査の上他の有税酒類に變製する時は更に其酒類に屬する醸造税を上納すべしと雖も全く廢棄ゑ至るものは其石數に係る醸造税上納に不及候事
但去檢査濟れ腐敗酒を以て有税の酒類に變製候共其酒類に屬そる營業税は別段上納に不及候事

第七條

一酒造營業免許を受けたる者は檢査未濟の酒類を販賣し又は自家の飲料贈物等に供し候儀は不相成候事

但し檢査の後自飲等に供する分と雖も其釀造稅は免除不致候事

第八條

一清酒搾り器械へは主任官員の封印を附し常に之を用ふるを許さず候條使用の節は其旨屆出開封を請ふべき事

第三則中

第六條

一檢査の際其造石數を隱蔽し未だ賣捌かざる者は其酒類を取揚たる上壹石に付金七拾五錢の割を以て科料可申付事

第七條

一造石檢査未濟の酒類を自飲等に用ふる者ある時は其石數に係る釀造稅を徵收するは勿論壹石に付金七拾五錢の割を以て科料可申付事

第八條

一檢査官の許可を得ずして猥りに器械の封印を解披する

者は金拾五圓以下六圓以上の科料可申付事

明治八年第百貳拾貳號布告同追加ゝ中

第六條

一酒造營業免許ゝ者は何種類を問はず他家ゝ造酒を買受け販賣するに於ては受賣營業税可相納事

第七條

削除

明治十年第八十一號布告同追加の中

第一項中(醸造税賣捌代價貳拾分ゝ壹(金壹圓に付五錢)の貳拾壹字を削除す

年々)

○甲第百九十六號　同四日

太政官第廿九號九月廿八日

明治九年(八月)第百六號布告國立銀行條例第十五章税額の儀ゝ銀行紙幣下付高ゝ千分の七と相定め本年七月より年々徴收候條此旨布告候事

但ゝ納期ゝ儀は一ヶ年兩度に割合前半年分い七月三十一日限り後半年分は一月三十一日限り其管轄廳へ可相納事

○甲第百九拾七號　同　日

大藏省甲第三十四號九月廿八日

本年第拾六號を以て布告相成候銀行紙幣五圓札見本壹葉掲示中本年七月廿六日紛失候趣山口縣より上申有之候處右は見本札れ儀に付表面番記號幷に銀行の名號及び頭取支配人れ姓名共記載無之は勿論裏面地名の上東京の二字を朱消去且右方見本れ二字を押捺有之固より通用可致品よ無之深索中に候條日常取引の際各注意致し右五圓札見當り候はば其人名宿所等精細相糺去速に其地方廳へ屆出可申此旨布達候事

○甲第九十八號　同　日

大藏省甲第三十五號九月廿八日

明治九年(二月)當省甲第貳號布達但書左の通改正候條此旨布達候事

但去營業續の者は此限に非ず

○甲第百九十九號　同五日

内務省甲第廿六號九月廿七日

廣島縣管下安藝國豐田郡田野浦村と備後國御調郡西野村とに係る國郡界未定れ場所今般相定反別貳拾三町七反五畝貳拾壹歩は安藝國豐田郡田野浦村へ反別五拾六町四反壹畝拾歩は備後國御調郡西野村へ編入候條此旨布達候事

○甲第二百號　同　日

太政官第三十號九月三十日

本年(五月)第八號布告抹式取引所條例第拾壹章に掲載そる稅額の儀は手數料其他現收せる總金高拾分の壹と相定め本年七月より徴收候條此旨布告候事

但し納期は一ヶ年兩度に區分し前半年分は七月三十一日限り後半年分は一月三十一日限り其管轄廳へ可相納事

○甲第二百一號　同　日

太政官第三十一號十月一日

明治九年(八月)第百六號布告國立銀行條例第五十七條左の通改正候條此旨布告候事

國立銀行條例

第五十七條　此條例と遵奉する銀行の貸付金利息は政府の於て定めたる一般の利息制限法に準據すべし若し其限に超過そるものある時は大藏卿は其銀行を督責して之を其制限の割合に引直さしむべし

○甲第二百二號　同八日

大藏省甲第三十六號十月二日

本年八月廿七日甲第貳拾八號と以て及布達候新公債證書當り發の內百圓す印(自三五六九至三五七五)七枚はせ印の